

1 調査対象大学等の概要等

(1) 設置者

学校法人加計学園

(2) 大学名

岡山理科大学

(3) 調査対象大学等の位置

〒794-0085 (700-0005)

愛媛県今治市いこいの丘1-3 (岡山県岡山市北区理大町1番1号)

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を()書きで記入してください。
・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

(4) 管理運営組織

職名	設置時	変更状況	備考
理事長	(カケ コウタロウ) 加計 晃太郎 (平成13年1月)	(フリガナ) 氏名 (現職就任年月)	
学長	(ヤギノ ヤスノブ) 柳澤 康信 (平成28年4月)		
学部長	(ヨシガワ ヤスヒロ) 吉川 泰弘 (平成30年4月)		
学科長	(オオワダ カズオ) 大和田 一雄 (平成30年4月)		

- (注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を()書きで記入してください。

(例) 平成30年度に報告済の内容 → (30)

令和元年度に報告する内容 → (元)

- ・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載(昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正)するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
- ・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。
- ・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

(5) 調査対象学部等の名称、定員、入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部等の学科または研究科の専攻等、定員を定めている組織ごとに記入してください(入試区分ごとではありません)。
 ・ なお、課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は、法令上規定されている最小単位(大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」でも記載してください。その場合適宜各項目の表を追加してください。
 ・ 様式は、平成27年度開設の4年制の学科の完成年度を超えて報告する場合(令和元年度までの5年間)ですが、完成年度を超えていない場合は修業年限に合わせて作成してください。(修業年限が4年以下の場合には欄を削除し、5年以上の場合には、欄を設けてください。)
 ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により、我が国の大学(大学院を含む。)、短期大学、高等専門学校、専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
 ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。

(5) - ① 調査対象学部等の名称等

調査対象学部等の名称(学位)	学位又は学科の分野	設置時の計画				備考
		修業年限	入学定員	編入学定員	收容定員	
獣医学部 獣医保健看護学科 学士(獣医保健看護学)	農学関係	4年	60人	年次人 -	240人	

- (注) ・ 定員を変更した場合は、「備考」に変更前の人数、変更年月及び報告年度を()書きで記入してください。
 ・ 基礎となる学部等がある場合には、「備考」に基礎となる学部等の名称を記入してください。
 ・ 学生募集停止を予定している場合は、「備考」にその旨記載してください。
 ・ 「学位又は学科の分野」には、「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要(別記様式第2号(その2の1))」の「学位又は学科の分野」と同様に記入してください。

(5) - ② 調査対象学部等の入学者の状況

区分	対象年度		平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度		平均入学定員超過率	開設年度から報告年度までの平均入学定員超過率	備考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期			
A 入学定員	60	(-)	[-]	60	(-)	[-]	()	()	()	()	0.68倍	-	
志願者数	267	(-)	[-]	311	(-)	[-]	()	()	()	()			
受験者数	261	(-)	[-]	306	(-)	[-]	()	()	()	()			
合格者数	230	(-)	[-]	282	(-)	[-]	()	()	()	()			
B 入学者数	39	(-)	[-]	43	(-)	[-]	()	()	()	()			
入学定員超過率 B/A	0.65		0.71										

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください)。
 ・ () 内には、編入学の状況について外数で記入してください。なお、編入学を複数年次で行っている場合には、(())書きとするなどし、その旨を「備考」に付記してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
 ・ 転入学生は記入しないでください。
 ・ [] 内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学の実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 ・ 「入学定員超過率」については、各年度の春季入学とその他を合計した入学定員、入学者数で算出してください。なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。
 ・ 「平均入学定員超過率」には、開設年度から報告年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。なお、計算の際は「入学定員超過率」と同様にしてください。
 ・ 「開設年度から報告年度までの平均入学定員超過率」は、完成年度を越えて報告書を提出する大学のみ記入してください。完成年度を越えていない場合は「-」を記入してください。

(5) - (3) 調査対象学部等の在学者の状況

対象年度 学 年	平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度		備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
1年次	39 [-] (-)	- [-] (-)	43 [-] (-)	- [-] (-)					
2年次	/		37 [-] (-)	- [-] (-)					
3年次			/						
4年次	/								
計			39 [-] (-)		80 [-] (-)				

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ []内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
 - ・ ()内には、留年者の状況について、内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 - ・ 編入学生や転入学生も含めて記入してください。その際、備考欄に人数の内訳を記入してください。
 - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 - ・ 「計」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数を記入してください。

(5) - ④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区分 対象年度	在学者数(b)	退学者数(a)	内訳			主な退学理由 (留学生の理由は[]書き)
			入学した年度	退学者数		
				うち留学生数		
平成30年度	39人	2人	平成30年度	2人	0人	本学獣医学科へ入学(1名)、進路変更(1名)
令和元年度	80人	0人	平成30年度	0人	0人	
			令和元年度	0人	0人	
令和2年度	人	人	平成30年度	人	人	
			令和2年度	人	人	
			令和元年度	人	人	
令和3年度	人	人	平成30年度	人	人	
			令和2年度	人	人	
			令和元年度	人	人	
			令和2年度	人	人	
合計		2人		人	人	

(注)・数字は、報告年度の5月1日現在の数字を記入してください。

- ・各対象年度の在学者数については、対象年度の人数を記入してください。(在学者数から退学者数を減らす必要はありません。)
- ・内訳については、退学した学生が入学した年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
- ・在学者数、退学者数には編入学生や転入学生も含めて記入してください。
- ・「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(○人)」というように、その人数も含めて記入してください。
(記入項目例)・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学
・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

(5) - ⑤ 調査対象学部等の年度ごとの退学者の割合

【平成30年度】

$$\frac{\text{平成30年度の退学者数(a)}}{\text{平成30年度の在学者数(b)}} = \frac{2}{39} = \boxed{5.12} \%$$

【令和元年度】

$$\frac{\text{令和元年度の退学者数(a)}}{\text{令和元年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{80} = \boxed{0} \%$$

【令和2年度】

$$\frac{\text{令和2年度の退学者数(a)}}{\text{令和2年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{0} = \boxed{\#DIV/0!} \%$$

【令和3年度】

$$\frac{\text{令和3年度の退学者数(a)}}{\text{令和3年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{0} = \boxed{\#DIV/0!} \%$$

(注)・小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

2 授業科目の概要

< 獣医学部獣医保健看護学科 >

(1) -① 授業科目表

【認可時又は届出時】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
学部共通導入科目	動物関連キャリア概論	1①	1				1					兼17
	生命倫理学	1①	1			1						兼1
	人間・動物関係学	1②		2								兼1
	獣医事法規	1②	1									兼1
	小計 (4科目)	-	3	2	0	1	1	0	0	0		兼18
基礎科目	生命科学	1①	1									兼1
	動物分子生物学	1①	1									兼1
	生命科学実習	1①		1								兼16
	化学	1①		1								兼1
	生物物理学	1③		1								兼1
	情報リテラシー	1③	2									兼1
	生物統計	2④		1								兼1
	小計 (7科目)	-	4	4	0	0	0	0	0	0		兼19
専門教育科目 獣医看護基礎科目	動物福祉論	1②	1			1						兼1
	愛玩動物飼育管理論	1②		2								兼1
	生命関連法規	1③	1			1						兼1
	動物生化学	1②		2								兼1
	動物生理学	1④	2									兼1
	動物形態機能学Ⅰ	1③	1									兼1
	動物形態機能学Ⅱ	1③	2									兼1
	動物形態機能学実習	1③		1								兼4
	動物薬理学総論	2①		1								兼1
	動物薬理学各論	2②		2								兼1
	動物薬理学実習	2①		1								兼5
	動物病理学	2②		2								兼1
	動物免疫学	2②		2								兼1
	動物微生物学	2①		2								兼1
	動物毒性学	2④		2								兼1
	動物毒性学実習	2④		1								兼6
	動物実験学	2③		2								兼2
	実験動物学	2③		1		1						兼2
	実験動物学実習Ⅰ	2③		1		1	1		1			兼1
	医動物学	2②		2								兼1
	動物微生物学実習	2③		1								兼4
	人獣共通感染症学	2②		2								兼1
	動物公衆衛生学	2③		2								兼1
	獣疫学	2②		2								兼1
	生産農学概論	1②		1			1					兼1
	栄養学	1④	2				1					兼1
	遺伝育種学	2③		2		1						兼1
	食品衛生学	3①		2								兼1
	小計 (28科目)	-	9	36	0	2	3	0	1	0		兼26

【令和元年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
学部共通導入科目	動物関連キャリア概論	1①	1				1					兼18
	生命倫理学	1①	1			1						兼1
	人間・動物関係学	1②		2								兼1
	獣医事法規	1②	1									兼1
	小計 (4科目)	-	3	2	0	1	1	0	0	0		兼19
基礎科目	生命科学	1①	1									兼1
	動物分子生物学	1①	1									兼1
	生命科学実習	1①		1								兼16
	化学	1①		1								兼1
	生物物理学	1③		1								兼1
	情報リテラシー	1③	2									兼1
	生物統計	2④		1								兼1
	小計 (7科目)	-	4	4	0	0	0	0	0	0		兼18
専門教育科目 獣医看護基礎科目	動物福祉論	1②	1			1						兼1
	愛玩動物飼育管理論	1②		2								兼1
	生命関連法規	1③	1			1						兼1
	動物生化学	1②		2								兼1
	動物生理学	1④	2									兼1
	動物形態機能学Ⅰ	1③	1									兼1
	動物形態機能学Ⅱ	1③	2									兼1
	動物形態機能学実習	1③		1								兼3
	動物薬理学総論	2①		1								兼1
	動物薬理学各論	2②		2								兼1
	動物薬理学実習	2①		1								兼5
	動物病理学	2②		2								兼1
	動物免疫学	2②		2								兼1
	動物微生物学	2①		2								兼1
	動物毒性学	2④		2								兼1
	動物毒性学実習	2④		1								兼6
	動物実験学	2③		2								兼2
	実験動物学	2③		1		1						兼2
	実験動物学実習Ⅰ	2③		1		1	1		1			兼1
	医動物学	2②		2								兼1
	動物微生物学実習	2③		1								兼4
	人獣共通感染症学	2②		2								兼1
	動物公衆衛生学	2③		2								兼1
	獣疫学	2②		2								兼1
	生産農学概論	1②		1				1				兼1
	栄養学	1④	2					1				兼1
	遺伝育種学	2③		2		1						兼1
	食品衛生学	3①		2								兼1
	小計 (28科目)	-	9	36	0	3	1	0	1	0		兼26

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
獣医看護専門科目	動物看護学概論	1④	2			1						
	動物看護技術学	2①	2			1						
	動物看護技術学実習Ⅰ	2②	1			1	1		1			
	動物看護技術学実習Ⅱ	2③	1			1	1		1			
	動物看護技術学実習Ⅲ	3③	1			1	1					兼1
	動物臨床検査学Ⅰ	3①	2									兼1
	動物臨床検査学Ⅱ	3②	2			1						兼1
	動物臨床検査学実習Ⅰ	3②	1				1					兼2
	動物臨床検査学実習Ⅱ	3②	1			1			1			兼1
	外科動物看護技術学	3③	2			1						
	外科動物看護技術学実習	3④	1			2						兼1
	臨床動物栄養学	2④		2								兼2
	臨床動物看護学総論	3①	2			1						
	臨床動物看護学各論Ⅰ	3②	2				1					
	臨床動物看護学各論Ⅱ	3③	2									兼2
	臨床動物看護学各論Ⅲ	3④	2			1						
	臨床動物看護学演習	3③		1		1	2		1			
	臨床動物看護技術学実習	3②		1			1		1			
	病院動物看護実習	3④		2		2	1					兼7
	野生動物学	2①		2								兼1
	動物行動学	3①		2								兼1
	産業動物看護学	2④		2			1					
	動物園・水族館学	3②		1								兼3
	エキゾチックアニマル学	3③		1								兼3
	実験動物処置管理演習	3④		1		1	1					
小計(25科目)	-		24	15	0	3	4	0	1	0		兼16
実験動物科目	トランスレーショナル・リサーチ	4③		1								兼1
	獣医病態モデル学	4③		1			1					兼3
	遺伝子工学	4②		1								兼1
	実験動物飼養管理学	3①		1			1					
	実験動物看護実習	4②		1		1	2		1			
	実験動物学実習Ⅱ	4②		1		1	1		1			
	生殖工学	4③		1			1		1			
	生殖工学実習	4③		1			1		1			
	小計(8科目)	-		0	8	0	1	3	0	1	0	
獣医看護アドバンスト科目	バイオセーフティ学	2①		1								兼1
	動物危機管理学	4①		2								兼1
	生物多様性保全論	4②		1								兼1
	レギュラトリー科学	4③		1								兼3
	産業動物疾病予防管理学	4③		1			1					
	産業動物看護学実習	2④		1			1		1			兼3
	医薬品・食品安全性評価演習	4①		1								兼1
	人工授精学	4①		1			1					
	人工授精学実習	4①		1			1	1				兼1
	家畜疾病学	4②		1			1					
	家畜繁殖学	3③		2			1					
小計(11科目)	-		0	13	0	1	1	0	1	0		兼10
高度獣医療看護科目	チーム獣医療学	4①		1			1					兼2
	動物歯科衛生学演習	4④		1								兼1
	動物の疼痛と福祉	3④		1			1					兼1
	動物理学療法学演習	4①		2								兼1
	高齢動物看護学	3②		1			1					
	救急・終末医療看護学	3③		1			1					
小計(6科目)	-		0	7	0	2	2	0	0	0		兼5

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
獣医看護専門科目	動物看護学概論	1④	2				1					
	動物看護技術学	2①	2									兼1
	動物看護技術学実習Ⅰ	2②	1				1	1		1		
	動物看護技術学実習Ⅱ	2③	1					1		1	1	
	動物看護技術学実習Ⅲ	3③	1							1	1	兼1
	動物臨床検査学Ⅰ	3①	2									兼1
	動物臨床検査学Ⅱ	3②	2					1				兼1
	動物臨床検査学実習Ⅰ	3②	1					1				兼2
	動物臨床検査学実習Ⅱ	3②	1								2	兼1
	外科動物看護技術学	3③	2									
	外科動物看護技術学実習	3④	1							1	1	兼1
	臨床動物栄養学	2④		2								兼2
	臨床動物看護学総論	3①	2					1				
	臨床動物看護学各論Ⅰ	3②	2							1		
	臨床動物看護学各論Ⅱ	3③	2									兼2
	臨床動物看護学各論Ⅲ	3④	2									
	臨床動物看護学演習	3③		1			1	1	1	1	1	
	臨床動物看護技術学実習	3②		1						1	1	
	病院動物看護実習	3④		2				1		1	1	兼7
	野生動物学	2①		2								兼1
	動物行動学	3①		2								兼1
	産業動物看護学	2④		2				1				
	動物園・水族館学	3②		1								兼3
	エキゾチックアニマル学	3③		1								兼3
	実験動物処置管理演習	3④		1			1	1				
小計(25科目)	-		24	15	0	3	2	1	2	0		兼17
実験動物科目	トランスレーショナル・リサーチ	4③		1								兼1
	獣医病態モデル学	4③		1				1				兼3
	遺伝子工学	4②		1								兼1
	実験動物飼養管理学	3①		1				1				
	実験動物看護実習	4②		1		1	2		1			
	実験動物学実習Ⅱ	4②		1		1	1		1			
	生殖工学	4③		1								兼1
	生殖工学実習	4③		1						1		兼1
	小計(8科目)	-		0	8	0	1	2	0	1	0	
獣医看護アドバンスト科目	バイオセーフティ学	2①		1								兼1
	動物危機管理学	4①		2								兼1
	生物多様性保全論	4②		1								兼1
	レギュラトリー科学	4③		1								兼3
	産業動物疾病予防管理学	4③		1			1					
	産業動物看護学実習	2④		1			1		1	1		兼3
	医薬品・食品安全性評価演習	4①		1								兼1
	人工授精学	4①		1						1		
	人工授精学実習	4①		1			1		1			兼1
	家畜疾病学	4②		1						1		
	家畜繁殖学	3③		2						1		
小計(11科目)	-		0	13	0	1	0	1	1	0		兼10
高度獣医療看護科目	チーム獣医療学	4①		1						1		兼2
	動物歯科衛生学演習	4④		1								兼1
	動物の疼痛と福祉	3④		1					1			兼1
	動物理学療法学演習	4①		2								兼1
	高齢動物看護学	3②		1			1					
	救急・終末医療看護学	3③		1						1		
小計(6科目)	-		0	7	0	2	1	1	1	0		兼5

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
外国語教育科目	海外語学研修D	1・2・3・4・5・6 ①・②・③・④		3								兼1
	日本語理解	1③~④		2								兼1
	日本語表現	1③~④		2								兼1
	TOEICセミナーI	1・2・3・4・5・6 ①・②・③・④		2								兼1
	TOEICセミナーII	1・2・3・4・5・6 ①・②・③・④		2								兼1
小計(42科目)	-	6	28	0	0	0	0	0	0	0	0	兼31
初年次教育科目	フレッシュマンセミナー	1①	1									兼1
	小計(1科目)	-	1	0	0	0	0	0	0	0	0	兼1
人間・社会科学教育科目	心理学A	1①・③		1								兼1
	心理学B	1②・④		1								兼1
	文学A	1①・③		1								兼1
	文学B	1②・④		1								兼1
	日本史A	1①・③		1								兼1
	日本史B	1②・④		1								兼1
	外国史A	1①・③		1								兼1
	外国史B	1②・④		1								兼1
	政治学A	1①・③		1				1				兼1
	政治学B	1②・④		1				1				兼1
	国際関係論A	1①・③		1			1					兼1
	国際関係論B	1②・④		1			1					兼1
	海外文化研修	1・2・3・4・5・6 ①・②・③・④		2								兼1
	経済学A	1①・③		1								兼1
	経済学B	1②・④		1								兼1
	日本国憲法	1①~②		2			1					兼1
	法学A	1①・③		1			1					兼1
	法学B	1②・④		1			1					兼1
	社会と人間A	1①・③		1				1				兼1
	社会と人間B	1②・④		1				1				兼1
健康の科学	1③~④		2								兼1	
生涯スポーツ	1①~②		1								兼1	
スポーツとフィールド科学 (エコツーリズムのための野外スポーツ)	1②		2								兼4	
スポーツとフィールド科学 (スキー)	1④		1								兼5	
スポーツとフィールド科学 (テニス)	1①・③		1								兼1	
小計(25科目)	-	0	29	0	0	1	1	0	0	0	0	兼15
キャリア教育科目	文章表現法基礎編A	1①・③		1				1				兼1
	文章表現法基礎編B	1②・④		1				1				兼1
	プレゼンテーション基礎編A	1①・③		1				1				兼1
	プレゼンテーション基礎編B	1②・④		1				1				兼1
	教養演習A	1①・③		1				1				兼1
	教養演習B	1②・④		1				1				兼1
	企業と人間A	1①・③		1								兼1
	企業と人間B	1②・④		1								兼1
	キャリア形成講座A	1①・③		1			1	2				兼1
	キャリア形成講座B	1②・④		1			1	2				兼1
	学びの基礎論A	1①・③		1				1				兼1
	学びの基礎論B	1②・④		1				1				兼1
	企業情報特論A	2①		1								兼1
	企業情報特論B	2②		1								兼1
	インターンシップ概論	2①・②・③・④		1			1	2				兼1
インターンシップA	2①・②・③・④		1			1	2				兼1	
インターンシップB	2①・②・③・④		2			1	2				兼1	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
外国語教育科目	海外語学研修D	1・2・3・4・5・6 ①・②・③・④		3								兼1
	日本語	1①~②		4								兼1
	日本語理解	1③~④		2								兼1
	日本語表現	1③~④		2								兼1
	TOEICセミナーI	1・2・3・4・5・6 ①・②・③・④		2								兼1
TOEICセミナーII	1・2・3・4・5・6 ①・②・③・④		2								兼1	
小計(43科目)	-	6	32	0	0	0	0	0	0	0	0	兼31
初年次教育科目	フレッシュマンセミナー	1①	1									兼1
	小計(1科目)	-	1	0	0	0	0	0	0	0	0	兼1
人間・社会科学教育科目	心理学A	1①・③		1								兼1
	心理学B	1②・④		1								兼1
	文学A	1①・③		1								兼1
	文学B	1②・④		1								兼1
	日本史A	1①・③		1								兼1
	日本史B	1②・④		1								兼1
	外国史A	1①・③		1								兼1
	外国史B	1②・④		1								兼1
	政治学A	1①・③		1					1			兼1
	政治学B	1②・④		1					1			兼1
	国際関係論A	1①・③		1			1					兼1
	国際関係論B	1②・④		1			1					兼1
	海外文化研修	1・2・3・4・5・6 ①・②・③・④		2								兼1
	経済学A	1①・③		1								兼1
	経済学B	1②・④		1								兼1
	日本国憲法	1①~②		2			1					兼1
	法学A	1①・③		1			1					兼1
	法学B	1②・④		1			1					兼1
	社会と人間A	1①・③		1					1			兼1
	社会と人間B	1②・④		1					1			兼1
健康の科学	1③~④		2								兼1	
生涯スポーツ	1①~②		1								兼1	
スポーツとフィールド科学 (エコツーリズムのための野外スポーツ)	1①~②		2								兼5	
スポーツとフィールド科学 (スキー)	1③~④		1								兼7	
スポーツとフィールド科学 (テニス)	1①・③		1								兼1	
小計(25科目)	-	0	29	0	0	1	1	0	0	0	0	兼17
キャリア教育科目	文章表現法基礎編A	1①・③		1					1			兼1
	文章表現法基礎編B	1②・④		1					1			兼1
	プレゼンテーション基礎編A	1①・③		1					1			兼1
	プレゼンテーション基礎編B	1②・④		1					1			兼1
	教養演習A	1①・③		1					1			兼1
	教養演習B	1②・④		1					1			兼1
	企業と人間A	1①・③		1								兼1
	企業と人間B	1②・④		1								兼1
	キャリア形成講座A	1①・③		1			1	2				兼1
	キャリア形成講座B	1②・④		1			1	2				兼1
	学びの基礎論A	1①・③		1					1			兼1
	学びの基礎論B	1②・④		1					1			兼1
	企業情報特論A	2①		1								兼1
	企業情報特論B	2②		1								兼1
	インターンシップ概論	2①・②・③・④		1			1	2				兼1
インターンシップA	2①・②・③・④		1			1	2				兼1	
インターンシップB	2①・②・③・④		2			1	2				兼1	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任		
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手			
教養教育科目	キャリア教育科目	インターンシップC	2①・②・③・④	3			1	2					
	文章表現法応用編A	2①・③	1				1						
	文章表現法応用編B	2②・④	1					1					
	プレゼンテーション応用編A	2①・③	1					1					
	プレゼンテーション応用編B	2②・④	1						1				
	小計(22科目)	-	0	25	0	0	1	2	0	0		兼2	
	科学技術教育科目	現代人の科学A	1②・④	1									兼1
	現代人の科学B	1①・②	1										兼1
	現代人の科学C	1①・③	1										兼1
	現代人の科学D	1①・③	1										兼1
小計(4科目)	-	0	4	0	0	0	0	0	0		兼4		
合計(195科目)		-	59	177	0	4	5	2	1	0		兼98	

卒業要件及び履修方法

【卒業要件】

専門教育科目、外国語教育科目、教養教育科目より合計124単位以上修得し、必修単位はすべて修得すること。専門教育科目より84単位以上、外国語教育科目10単位以上、教養教育科目19単位以上(内キャリア教育科目4単位以上、科学技術教育科目2単位以上)を修得すること。
(履修科目の登録の上限:49単位(年間))

【獣医看護アドバンスト科目の履修条件】

ライフサイエンス分野の学生は実験動物科目から、公共獣医事分野の学生は公衆衛生科目から、獣医療看護分野の学生は高度獣医療看護科目から3単位を選択必修とし、他分野の科目も含めてそれぞれ合計5単位以上を修得すること。また、「獣医看護実務実習Ⅰ」「獣医看護実務実習Ⅱ」のうち1科目1単位以上修得すること。

【外国語教育科目における選択必修科目の履修条件】

1)「発信英語ⅢA」、「発信英語ⅢB」、「発信英語ⅣA」、「発信英語ⅣB」、「実用英語(アカデミックライティング)」、「実用英語(プレゼンテーション)」、「中国語ⅠA」、「中国語ⅠB」、「中国語ⅡA」、「中国語ⅡB」、「ハングルⅠA」、「ハングルⅠB」、「ハングルⅡA」、「ハングルⅡB」の中から2単位を選択必修科目として修得すること。
2)「専門英語ⅠA」「専門英語ⅠB」または「応用英語ⅠA」「応用英語ⅠB」のうちいずれかの組み合わせ、「専門英語ⅡA」「専門英語ⅡB」または「応用英語ⅡA」「応用英語ⅡB」のうちいずれかの組み合わせ、合わせて2単位を選択必修科目として修得すること。
3)外国人留学生は、母国語の科目を選択履修することはできない。
4)「日本語理解」、「日本語表現」は外国人留学生対象の科目であり、他の学生は履修できない。

【教養教育科目における選択必修科目の履修条件】

1)キャリア教育科目から4単位を卒業までに修得しなければならない。
2)科学技術教育科目から2単位を卒業までに修得しなければならない。

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任		
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手			
教養教育科目	キャリア教育科目	インターンシップC	2①・②・③・④	3			1	2					
	文章表現法応用編A	2①・③	1				1						
	文章表現法応用編B	2②・④	1					1					
	プレゼンテーション応用編A	2①・③	1					1					
	プレゼンテーション応用編B	2②・④	1						1				
	小計(22科目)	-	0	25	0	0	1	2	0	0		兼2	
	科学技術教育科目	現代人の科学A	1②・④	1									兼1
	現代人の科学B	1①・②	1										兼1
	現代人の科学C	1①・③	1										兼1
	現代人の科学D	1①・③	1										兼1
小計(4科目)	-	0	4	0	0	0	0	0	0		兼4		
合計(196科目)		-	59	181	0	3	3	4	2	0		兼102	

卒業要件及び履修方法

【卒業要件】

専門教育科目、外国語教育科目、教養教育科目より合計124単位以上修得し、必修単位はすべて修得すること。専門教育科目より84単位以上、外国語教育科目10単位以上、教養教育科目19単位以上(内キャリア教育科目4単位以上、科学技術教育科目2単位以上)を修得すること。
(履修科目の登録の上限:49単位(年間))

【獣医看護アドバンスト科目の履修条件】

ライフサイエンス分野の学生は実験動物科目から、公共獣医事分野の学生は公衆衛生科目から、獣医療看護分野の学生は高度獣医療看護科目から3単位を選択必修とし、他分野の科目も含めてそれぞれ合計5単位以上を修得すること。また、「獣医看護実務実習Ⅰ」「獣医看護実務実習Ⅱ」のうち1科目1単位以上修得すること。

【外国語教育科目における選択必修科目の履修条件】

1)「発信英語ⅢA」、「発信英語ⅢB」、「発信英語ⅣA」、「発信英語ⅣB」、「実用英語(アカデミックライティング)」、「実用英語(プレゼンテーション)」、「中国語ⅠA」、「中国語ⅠB」、「中国語ⅡA」、「中国語ⅡB」、「ハングルⅠA」、「ハングルⅠB」、「ハングルⅡA」、「ハングルⅡB」の中から2単位を選択必修科目として修得すること。
2)「専門英語ⅠA」「専門英語ⅠB」または「応用英語ⅠA」「応用英語ⅠB」のうちいずれかの組み合わせ、「専門英語ⅡA」「専門英語ⅡB」または「応用英語ⅡA」「応用英語ⅡB」のうちいずれかの組み合わせ、合わせて2単位を選択必修科目として修得すること。
3)外国人留学生は、母国語の科目を選択履修することはできない。
4)「日本語」「日本語理解」、「日本語表現」は外国人留学生対象の科目であり、他の学生は履修できない。

【教養教育科目における選択必修科目の履修条件】

1)キャリア教育科目から4単位を卒業までに修得しなければならない。
2)科学技術教育科目から2単位を卒業までに修得しなければならない。

【平成30年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
学部共通導入科目	動物関連キャリア概論	1①	1				1					兼18
	生命倫理学	1①	1			1						
	人間・動物関係学	1②		2								兼1
	獣医事法規	1②	1									兼1
	小計（4科目）	-	3	2	0	1	1	0	0	0		兼19
基礎科目	生命科学	1①	1									兼1
	動物分子生物学	1①	1									兼1
	生命科学実習	1①		1								兼16
	化学	1①		1								兼1
	生物物理学	1③		1								兼1
	情報リテラシー	1③	2									兼7
	生物統計	2④		1								
	小計（7科目）	-	4	4	0	0	0	0	0	0		兼20
専門教育科目 獣医看護基礎科目	動物福祉論	1②	1			1						
	愛玩動物飼育管理論	1②		2								兼1
	生命関連法規	1③	1			1						
	動物生化学	1②		2								兼1
	動物生理学	1④	2									兼1
	動物形態機能学Ⅰ	1③	1									兼1
	動物形態機能学Ⅱ	1③	2									兼1
	動物形態機能学実習	1③		1								兼4
	動物薬理学総論	2①		1								兼1
	動物薬理学各論	2②		2								兼1
	動物薬理学実習	2①		1								兼5
	動物病理学	2②		2								兼1
	動物免疫学	2②		2								兼1
	動物微生物学	2①		2								兼1
	動物毒性学	2④		2								兼1
	動物毒性学実習	2④		1								兼6
	動物実験学	2③		2								兼2
	実験動物学	2③		1		1						
	実験動物学実習Ⅰ	2③		1		1	1		1			
	医動物学	2②		2								兼1
	動物微生物学実習	2③		1								兼4
	人獣共通感染症学	2②		2								兼1
	動物公衆衛生学	2③		2								兼1
	獣医疫学	2②		2								兼1
	生産農学概論	1②		1		1						
	栄養学	1④	2			1						
	遺伝育種学	2③		2								兼1
	食品衛生学	3①		2								兼1
	小計（28科目）	-	9	36	0	3	1	0	1	0		兼26

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
獣医看護専門科目	動物看護学概論	1④	2				1					
	動物看護技術学	2①	2									
	動物看護技術学実習Ⅰ	2②	1			1	1		1			
	動物看護技術学実習Ⅱ	2③	1				1	1	1			
	動物看護技術学実習Ⅲ	3③	1					1				兼1
	動物臨床検査学Ⅰ	3①	2									兼1
	動物臨床検査学Ⅱ	3②	2			1						兼1
	動物臨床検査学実習Ⅰ	3②	1			1						兼2
	動物臨床検査学実習Ⅱ	3②	1						1			兼1
	外科動物看護技術学	3③	2									
	外科動物看護技術学実習	3④	1					1				兼1
	臨床動物栄養学	2④		2								兼2
	臨床動物看護学総論	3①	2			1						
	臨床動物看護学各論Ⅰ	3②	2					1				
	臨床動物看護学各論Ⅱ	3③	2									兼2
	臨床動物看護学各論Ⅲ	3④	2									
	臨床動物看護学演習	3③		1		1	1	1				
	臨床動物看護技術学実習	3②		1				1				
	病院動物看護実習	3④		2		1		1				兼7
	野生動物学	2①		2								兼1
	動物行動学	3①		2								兼1
	産業動物看護学	2④		2		1						
	動物園・水族館学	3②		1								兼3
	エキゾチックアニマル学	3③		1								兼3
	実験動物処置管理演習	3④		1		1	1					
小計(25科目)	-		24	15	0	3	2	1	1	0		兼16
実験動物科目	トランスレショナル・リサーチ	4③		1								兼1
	獣医病態モデル学	4③		1			1					兼3
	遺伝子工学	4②		1								兼1
	実験動物飼養管理学	3①		1			1					
	実験動物看護実習	4②		1		1	2		1			
	実験動物学実習Ⅱ	4②		1		1	1		1			
	生殖工学	4③		1								兼1
	生殖工学実習	4③		1					1			兼1
小計(8科目)	-		0	8	0	1	2	0	1	0		兼6
獣医看護アドバンスト科目	バイオセーフティ学	2①		1								兼1
	動物危機管理学	4①		2								兼1
	生物多様性保全論	4②		1								兼1
	レギュラトリー科学	4③		1								兼3
	産業動物疾病予防管理学	4③		1		1						
	産業動物看護学実習	2④		1		1		1	1			兼3
	医薬品・食品安全性評価演習	4①		1								兼1
	人工授精学	4①		1				1				
	人工授精学実習	4①		1		1		1				兼1
	家畜疾病学	4②		1				1				
	家畜繁殖学	3③		2				1				
小計(11科目)	-		0	13	0	1	0	1	1	0		兼10
高度獣医療看護科目	チーム獣医療学	4①		1				1				兼2
	動物歯科衛生学演習	4④		1								兼1
	動物の疼痛と福祉	3④		1			1					兼1
	動物理学療法学演習	4①		2								兼1
	高齢動物看護学	3②		1		1						
	救急・終末医療看護学	3③		1				1				
小計(6科目)	-		0	7	0	1	1	1	0	0		兼5

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
外国語教育科目	日本語理解	1③~④		2								兼1
	日本語表現	1③~④		2								兼1
	TOEICセミナーⅠ	1・2・3・4・5・6 ①・②・③・④		2								兼1
	TOEICセミナーⅡ	1・2・3・4・5・6 ①・②・③・④		2								兼1
	小計(42科目)	-	6	28	0	0	0	0	0	0	0	兼30
初年次教育科目	フレッシュマンセミナー	1①	1									兼1
	小計(1科目)	-	1	0	0	0	0	0	0	0	0	兼1
人間・社会科学教育科目	心理学A	1①・③		1								兼1
	心理学B	1②・④		1								兼1
	文学A	1①・③		1								兼1
	文学B	1②・④		1								兼1
	日本史A	1①・③		1								兼1
	日本史B	1②・④		1								兼1
	外国史A	1①・③		1								兼1
	外国史B	1②・④		1								兼1
	政治学A	1①・③		1				1				兼1
	政治学B	1②・④		1				1				兼1
	国際関係論A	1①・③		1			1					兼1
	国際関係論B	1②・④		1			1					兼1
	海外文化研修	1・2・3・4・5・6 ①・②・③・④		2								兼1
	経済学A	1①・③		1								兼1
	経済学B	1②・④		1								兼1
	日本国憲法	1①~②		2			1					兼1
	法学A	1①・③		1			1					兼1
	法学B	1②・④		1			1					兼1
	社会と人間A	1①・③		1				1				兼1
	社会と人間B	1②・④		1				1				兼1
	健康の科学	1③~④		2								兼1
	生涯スポーツ	1①~②		1								兼1
	スポーツとフィールド科学(エコツーリズムのための野外スポーツ)	1①~②		2								兼5
	スポーツとフィールド科学(スキー)	1③~④		1								兼7
	スポーツとフィールド科学(テニス)	1①・③		1								兼1
小計(25科目)	-	0	29	0	0	1	1	0	0	0	兼17	
キャリア教育科目	文章表現法基礎編A	1①・③		1				1				兼1
	文章表現法基礎編B	1②・④		1				1				兼1
	プレゼンテーション基礎編A	1①・③		1				1				兼1
	プレゼンテーション基礎編B	1②・④		1				1				兼1
	教養演習A	1①・③		1				1				兼1
	教養演習B	1②・④		1				1				兼1
	企業と人間A	1①・③		1								兼1
	企業と人間B	1②・④		1								兼1
	キャリア形成講座A	1①・③		1			1	2				兼1
	キャリア形成講座B	1②・④		1			1	2				兼1
	学びの基礎論A	1①・③		1				1				兼1
	学びの基礎論B	1②・④		1				1				兼1
	企業情報特論A	2①		1								兼1
	企業情報特論B	2②		1								兼1
	インターンシップ概論	2①・②・③・④		1			1	2				兼1
インターンシップA	2①・②・③・④		1			1	2				兼1	
インターンシップB	2①・②・③・④		2			1	2				兼1	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
教養教育科目	キャリア教育科目	インターンシップC	21・23・4	3			1	2				
	文章表現法応用編A	21・3	1				1					
	文章表現法応用編B	22・4	1				1					
	プレゼンテーション応用編A	21・3	1				1					
	プレゼンテーション応用編B	22・4	1				1					
	小計(22科目)	-	0	25	0	0	1	2	0	0	兼2	
	科学技術教育科目	現代人の科学A	12・4	1								兼1
	現代人の科学B	11・2	1									兼1
	現代人の科学C	11・3	1									兼1
	現代人の科学D	11・3	1									兼1
小計(4科目)	-	0	4	0	0	0	0	0	0	0	兼4	
合計(195科目)		-	59	177	0	3	3	4	1	0	兼102	

卒業要件及び履修方法

【卒業要件】

専門教育科目、外国語教育科目、教養教育科目より合計124単位以上修得し、必修単位はすべて修得すること。専門教育科目より84単位以上、外国語教育科目10単位以上、教養教育科目19単位以上(内キャリア教育科目4単位以上、科学技術教育科目2単位以上)を修得すること。
(履修科目の登録の上限:49単位(年間))

【獣医看護アドバンスト科目の履修条件】

ライフサイエンス分野の学生は実験動物科目から、公共獣医事分野の学生は公衆衛生科目から、獣医療看護分野の学生は高度獣医療看護科目から3単位を選択必修とし、他分野の科目も含めてそれぞれ合計5単位以上を修得すること。また、「獣医看護実務実習Ⅰ」「獣医看護実務実習Ⅱ」のうち1科目1単位以上修得すること。

【外国語教育科目における選択必修科目の履修条件】

- 1)「発信英語ⅢA」、「発信英語ⅢB」、「発信英語ⅣA」、「発信英語ⅣB」、「実用英語(アカデミックライティング)」、「実用英語(プレゼンテーション)」、「中国語ⅠA」、「中国語ⅠB」、「中国語ⅡA」、「中国語ⅡB」、「ハングルⅠA」、「ハングルⅠB」、「ハングルⅡA」、「ハングルⅡB」の中から2単位を選択必修科目として修得すること。
- 2)「専門英語ⅠA」「専門英語ⅠB」または「応用英語ⅠA」「応用英語ⅠB」のうちいずれかの組み合わせ、「専門英語ⅡA」「専門英語ⅡB」または「応用英語ⅡA」「応用英語ⅡB」のうちいずれかの組み合わせ、合わせて2単位を選択必修科目として修得すること。
- 3)外国人留学生は、母国語の科目を選択履修することはできない。
- 4)「日本語理解」、「日本語表現」は外国人留学生対象の科目であり、他の学生は履修できない。

【教養教育科目における選択必修科目の履修条件】

- 1)キャリア教育科目から4単位を卒業までに修得しなければならない。
- 2)科学技術教育科目から2単位を卒業までに修得しなければならない。

- (注) ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。
- ・ 設置認可時又は届出時の授業科目全て(兼任、兼任教員が担当する科目を含む。)を黒字で記載してください。その上で、認可時又は届出時から変更となっている箇所は太字の赤字としてください。
 - ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても記入してください。
 - ・ 1ページ目には認可時又は届出時と平成30年度の表を記入してください。
 - ・ 不要な年度(平成28年度開設であれば平成27年度、平成29年度開設であれば平成27年度及び平成28年度、平成30年度開設であれば平成27年度から平成29年度)の表は適宜削除し、詰めてください。(2つの表が1ページに表示されるようにしてください。)

(1) ②授業科目表に関する変更内容

【平成30年度】

- ・「動物関連キャリア概論」を担当する兼担の教授（獣医学科専任教授）2名、兼担の准教授（獣医学科専任准教授）2名が一身上の都合により辞退した。後任については、獣医学科においてAC教員審査受審により兼担の教授2名、兼担の講師2名を令和元年4月より配置するが、兼担講師のうち1名は令和2年度より就任するため、令和元年度は兼任講師1名を配置する。兼任・兼担の配置は「兼17」から「兼18」に変更となる。なお、1年①期より開講する科目であるため、平成30年度は兼任講師4名が担当した。
- ・「生命科学実習」を担当する兼担の准教授（獣医学科専任准教授）2名が一身上の都合により辞退した。後任については、獣医学科においてAC教員審査受審により令和元年4月より兼担教授1名、兼担の講師1名を配置することとした。なお、1年①期より開講する科目であるため、平成30年度は2名の別の兼担講師が担当した。兼任・兼担の配置は「兼16」であり変更はない。
- ・「生物物理学」を担当する兼担の教授（獣医学科専任教授）1名が一身上の都合により辞退した。後任については獣医学科においてAC教員審査受審により兼担教授1名を配置、平成30年9月1日に採用し、1年③期の授業を担当した。兼任・兼担の配置は「兼1」であり変更はない。
- ・「情報リテラシー」を担当する兼担の教授（獣医学科専任教授）1名が一身上の都合により辞退した。後任については、獣医学科においてAC教員審査受審により兼担准教授1名を配置することとした。なお1年③期より開講する科目であることから、平成30年度のみ兼担准教授1名、兼担講師1名、兼担助教5名の分担により実施した。兼任・兼担の配置は「兼1」から「兼7」となる。
- ・「生物統計」を担当する兼担の准教授（獣医学科専任准教授）1名が一身上の都合により辞退した。この科目は獣医学科と共同実施のため、後任については、獣医学科の専任准教授の担当科目追加のAC教員審査を受審することにより、兼担准教授1名を配置する計画である。AC教員審査は令和元年7月を予定していることから、現在の兼任・兼担の配置は「兼0」となっている。
- ・「動物病理学」を担当する兼担の准教授（獣医学科専任准教授）1名が一身上の都合により辞退した。後任については獣医学科においてAC教員審査受審により兼担講師1名を配置することとした。兼任・兼担の配置は「兼1」であり、変更はない。
- ・「実験動物学実習Ⅰ」を担当する専任助教1名が一身上の都合により辞退した。後任についてはAC教員審査受審により専任助教1名を配置することとした。専任教員等の配置は「教授1」「准教授1」「助教1」であり、変更はない。
- ・「動物公衆衛生学」を担当する兼担の教授（獣医学科専任教授）1名が一身上の都合により辞退した。後任については獣医学科においてAC教員審査受審により兼担准教授1名を配置することとした。兼任・兼担の配置は「兼1」であり、変更はない。
- ・「生産農学概論」を担当する専任の准教授1名が一身上の都合により辞退した。後任についてはAC教員審査受審により、専任教授1名を配置することとした。なお、1年②期より開講する科目であるため、当該教授が平成30年度のみ兼任講師として授業を担当した。
- ・「栄養学」を担当する兼任教員1名（令和2年度より専任准教授）の平成30年度担当が一身上の都合により不可能となり、平成30年度は兼任教員を配置して対応した。その後、平成30年10月に就任辞退することとなり、後任についてはAC教員審査受審により、専任教授1名を配置することとした。専任教員等の配置は「准教授1」から「教授1」に変更する。
- ・「遺伝育種学」を担当する専任の教授1名が一身上の都合により辞退、また、令和元年、令和2年は兼任、令和3年より兼担教授として就任予定の兼担教授が死去した。オムニバス開講の見直しを行い、単独で担当可能な獣医学科の教授予定者を令和元年7月のAC教員審査に申請する。なお、2年③期に開講する科目であることから、令和元年度は当該教員予定者が兼任講師として授業を担当する。専任教員等の配置は、「教授1」「兼1」から「兼1」となる。
- ・「動物看護技術学」を担当する専任の教授1名が一身上の都合により辞退した。後任については専任准教授の担当科目として令和元年7月AC教員審査を受審する予定である。2年①期より開講することから、令和元年度は兼任講師1名を配置する。専任教員等の配置は「教授1」から、「兼1」となる。
- ・「動物看護技術学実習Ⅰ」を担当する専任の教授1名、助教1名が一身上の都合により辞退した。後任についてはAC教員審査受審により専任教授1名、専任助教1名を配置する。専任教員等の配置は「教授1」「准教授1」「助教1」であり認可時と変更はない。
- ・「動物看護技術学実習Ⅱ」を担当する専任の教授1名、助教1名が一身上の都合により辞退した。後任についてはAC教員審査受審により専任講師1名、専任助教1名を配置する。専任教員等の配置は「教授1」「准教授1」「助教1」から、「准教授1」「講師1」「助教1」になる。
- ・「動物看護技術学実習Ⅲ」を担当する専任の教授1名、准教授1名が一身上の都合により辞退した。後任についてはAC教員審査受審により専任講師1名、専任助教1名を配置する。専任教員等の配置は「教授1」「准教授1」「兼1」から、「講師1」「助教1」「兼1」になる。
- ・「動物臨床検査学Ⅱ」を担当する専任の教授1名が一身上の都合により辞退した。後任についてはAC教員審査受審により専任教授1名を配置する。専任教員等の配置は「教授1」「兼1」であり、認可時と変更はない。
- ・「動物臨床検査学実習Ⅰ」を担当する専任の准教授1名が一身上の都合により辞退した。後任についてはAC教員審査受審により専任教授1名を配置する。残り1名の補充については令和元年度中に確定する計画である。専任教員等の配置は「教授1」「助教1」「兼1」から「助教1」「兼1」となる。
- ・「動物臨床検査学実習Ⅱ」を担当する専任の教授1名が一身上の都合により辞退した。後任についてはAC教員審査受審により専任助教1名を配置する。専任教員等の配置は「教授1」「助教1」「兼1」から「助教2」「兼1」となる。
- ・「外科動物看護技術学」を担当する専任の教授1名が一身上の都合により辞退した。後任については専任准教授の担当科目として令和元年7月AC教員審査を受審する予定である。専任教員等の配置は「教授1」から、「兼1」となる。
- ・「外科動物看護技術学実習」を担当する専任の教授2名が一身上の都合により辞退した。後任についてはAC教員審査受審により専任講師1名、専任助教1名を配置する。専任教員等の配置は「教授2」「兼1」から「講師1」「助教1」「兼1」となる。
- ・「臨床動物看護学総論」を担当する専任の教授1名が一身上の都合により辞退した。後任についてはAC教員審査受審により専任教授1名を配置する。専任教員等の配置は「教授1」であり認可時と変更はない。

- ・「臨床動物看護学各論Ⅰ」を担当する専任の准教授1名が一身上の都合により辞退した。後任についてはAC教員審査受審により専任講師1名を配置する。専任教員等の配置は「准教授1」から「講師1」となる。
- ・「臨床動物看護学各論Ⅲ」を担当する専任の教授1名が一身上の都合により辞退した。後任については専任准教授の担当科目として令和元年7月AC教員審査を受審する予定である。専任教員等の配置は「教授1」から「教授0」となる。
- ・「臨床動物看護学演習」を担当する専任の教授1名、准教授1名、助教1名が一身上の都合により辞退した。後任については、AC教員審査により専任教授1名、専任講師1名、専任助教1名を配置する。専任教員等の配置は「教授1」「准教授2」「助教1」から、「教授1」「准教授1」「講師1」「助教1」になる。
- ・「臨床動物看護技術学実習」を担当する専任の准教授1名、助教1名が一身上の都合により辞退した。後任については、AC教員審査により専任講師1名、専任助教1名を配置する。専任教員等の配置は「准教授1」「助教1」から、「講師1」「助教1」になる。
- ・「病院動物看護実習」を担当する専任の教授2名、准教授1名が一身上の都合により辞退した。後任については、AC教員審査により専任教授1名、専任講師1名、専任助教1名を配置する。専任教員等の配置は「教授2」「准教授1」「兼7」から、「教授1」「講師1」「助教1」「兼7」になる。
- ・「産業動物看護学」を担当する専任の准教授1名が一身上の都合により辞退した。後任については、AC教員審査により専任教授1名を配置する。専任教員等の配置は「准教授1」から、「教授1」になる。
- ・「トランスレーショナル・リサーチ」を担当する兼任教授1名が一身上の都合により辞退した。後任については獣医学科においてAC教員審査により兼任教授1名を配置する。専任教員等の配置は「兼1」であり認可時より変更はない。
- ・「実験動物看護実習」を担当する専任助教1名が一身上の都合により辞退した。後任についてはAC教員審査により専任助教1名を配置する。専任教員等の配置は「教授1」「准教授2」「助教1」であり認可時より変更はない。
- ・「実験動物学実習Ⅱ」を担当する専任助教1名が一身上の都合により辞退した。後任についてはAC教員審査により専任助教1名を配置する。専任教員等の配置は「教授1」「准教授1」「助教1」であり認可時より変更はない。
- ・「生殖工学」を担当する専任准教授1名、専任助教1名が一身上の都合により辞退した。後任についてはオムニバス開講を解消した上で兼任助教1名を配置する。専任教員等の配置は「准教授1」「助教1」から「兼1」になる。
- ・「生殖工学実習」を担当する専任の准教授1名、助教1名が一身上の都合により辞退した。後任についてはAC教員審査により助教1名を配置する。残りの1名分については兼任助教1名を配置する。専任教員等の配置は「准教授1」「助教1」から、「助教1」「兼1」になる。
- ・「産業動物疾病予防管理学」を担当する専任の教授1名が一身上の都合により辞退した。後任についてはAC教員審査により専任教授1名を配置する。専任教員等の配置は「教授1」であり認可時より変更はない。
- ・「産業動物看護学実習」を担当する専任の教授1名、准教授1名、助教1名が一身上の都合により辞退した。後任についてはAC教員審査受審により専任教授1名、専任講師1名、専任助教1名を配置することとした。専任教員等の配置は「教授1」「准教授1」「助教1」「兼3」から、「教授1」「講師1」「助教1」「兼3」になる。
- ・「人工授精学」を担当する専任の教授1名が一身上の都合により辞退した。後任についてはAC教員審査受審により専任講師1名を配置する。これにより専任教員等の配置は「教授1」から「講師1」になる。
- ・「人工授精学実習」を担当する専任の教授1名、准教授1名が一身上の都合により辞退した。後任についてはAC教員審査により専任教授1名、専任講師1名を配置する。これにより専任教員等の配置は「教授1」「准教授1」「兼1」から「教授1」「講師1」「兼1」になる。
- ・「家畜疾病学」を担当する専任の教授1名が一身上の都合により辞退した。後任についてはAC教員審査受審により専任講師1名を配置する。専任教員等の配置は「教授1」から「講師1」になる。
- ・「家畜繁殖学」を担当する専任の教授1名が一身上の都合により辞退した。後任についてはAC教員審査受審により専任講師1名を配置する。専任教員等の配置は「教授1」から「講師1」になる。
- ・「チーム獣医療学」を担当する専任の准教授1名が一身上の都合により辞退した。後任についてはAC教員審査受審により専任講師1名を配置する。専任教員等の配置は「准教授1」「兼2」から「講師1」「兼2」になる。
- ・「高齢動物看護学」を担当する専任の教授1名が一身上の都合により辞退した。後任についてはAC教員審査受審により専任教授1名を配置する。専任教員等の配置は「教授1」であり、認可時と変更はない。
- ・「救急・終末医療看護学」を担当する専任の教授1名が一身上の都合により辞退した。後任についてはAC教員審査受審により専任講師1名を配置する。専任教員等の配置は「教授1」から「講師1」になる。
- ・「獣医看護実務実習Ⅰ」「獣医看護実務実習Ⅱ」を担当する専任の教授2名、准教授1名が一身上の都合により辞退した。後任についてはAC教員審査受審により専任教授1名、講師1名、助教1名を配置する。専任教員等の配置は「教授2」「准教授1」から「教授1」「講師1」「助教1」になる。

- ・「プレゼミナールⅠ」「プレゼミナールⅡ」「プレゼミナールⅢ」「プレゼミナールⅣ」を担当する専任の教授2名、准教授2名が一身上の都合により辞退した。後任についてはAC教員審査により専任教授2名、専任講師1名を配置する。残り1名分については専任教授予定者を令和元年11月AC教員審査受審予定である。専任教員等の配置は「教授3」「准教授4」から「教授3」「准教授2」「講師1」になる。
- ・「動物とヒトの健康と福祉特論」を担当する専任の教授1名、准教授1名が一身上の都合により辞退した。後任についてはAC教員審査受審により専任教授1名、専任講師1名を配置する。専任教員等の配置は「教授1」「准教授1」から「教授1」「講師1」になる。
- ・「産業動物特論」を担当する専任の教授1名、准教授1名が一身上の都合により辞退した。後任についてはAC教員審査受審により専任教授1名、専任講師1名を配置する。専任教員等の配置は「教授1」「准教授1」から「教授1」「講師1」になる。
- ・「VPP特論」を担当する専任の教授1名が一身上の都合により辞退した。専任准教授との共同開講授業であることから、当該准教授の単独開講とした。専任教員等の配置は「教授1」「准教授1」から「准教授1」となる。
- ・「卒業研究Ⅰ」「卒業研究Ⅱ」を担当する専任の教授2名、准教授2名が一身上の都合により辞退した。後任についてAC教員審査受審により教授2名、講師1名を配置する。残り1名分の補充については専任教授候補者を令和元年11月AC教員審査を受審する予定である。専任教員等の配置は「教授3」「准教授4」から「教授3」「准教授2」「講師1」になる。
- ・「発信英語ⅠA」「発信英語ⅠB」「発信英語ⅡA」「発信英語ⅡB」「発信英語ⅢA」「発信英語ⅢB」「発信英語ⅣA」「発信英語ⅣB」を担当する兼任の講師1名を受講者数及びクラス編制の調整により担当から外した。これらの科目の兼任・兼担は「兼8」から「兼7」になる。
- ・「専門英語ⅠB」を担当する兼任の准教授（獣医学科専任准教授）1名が一身上の都合により辞退した。後任について獣医学科においてAC教員審査により兼任教授を配置する。兼任・兼担は「兼3」であり変更はない。
- ・「専門英語ⅡA」を担当する兼任の教授（獣医学科専任教授）1名が一身上の都合により辞退した。後任について獣医学科においてAC教員審査受審により兼任准教授を配置する。兼任・兼担は「兼3」であり変更はない。
- ・「専門英語ⅡB」を担当する兼任の准教授（獣医学科専任准教授）1名が一身上の都合により辞退した。後任について獣医学科においてAC教員審査により兼任教授を配置する。兼任・兼担は「兼3」であり変更はない。
- ・「健康の科学」「生涯スポーツ」を担当する兼任の准教授（獣医学科専任准教授）1名が一身上の都合により辞退し兼任教員の担当に変更となった。兼任・兼担は「兼1」であり変更はない。
- ・「スポーツとフィールド科学（エコツーリズムのための野外スポーツ）」、「スポーツとフィールド科学（スキー）」は、全学共通の科目であり、全学の教養教育科目ではセメスターで開講しているため、開講期をセメスター扱いへ変更する。
- ・「スポーツとフィールド科学（エコツーリズムのための野外スポーツ）」について、クラス編制の調整により担当する兼任教員1名を追加した。これにより、兼任・兼担は「兼4」から「兼5」になる。
- ・「スポーツとフィールド科学（スキー）」について、クラス編制の調整により担当する兼任教員2名を追加した。これにより、兼任・兼担は「兼5」から「兼7」に変更する。
- ・「現代人の科学D」を担当する兼任教員について、平成30年4月1日より特任教授として就任した。これにより兼任教員から兼任教員へ変更となるが、兼任・兼担は「兼1」で変更はない。

【令和元年度】

- ・「情報リテラシー」については平成30年度のみ兼任教員7名で担当したが、令和元年度より兼任准教授1名が担当するため、「兼7」から「兼1」に変更し、認可時の計画どおりの配置となる。
- ・時間割調整のため、「動物形態機能学実習」を担当する兼任助教1名について担当しないこととなった。兼任・兼任は「兼4」から「兼3」に変更する。
- ・「総合英語ⅠA」「総合英語ⅠB」「総合英語ⅡA」「総合英語ⅡB」「総合英語ⅢA」「総合英語ⅢB」「総合英語ⅣA」「総合英語ⅣB」を担当する兼任講師1名が任期満了となり、新たに1名の兼任講師を採用した。兼任・兼任は「兼8」であり、認可時と変更はない。
- ・「発信英語ⅠA」「発信英語ⅠB」「発信英語ⅡA」「発信英語ⅡB」を担当する兼任講師1名が任期満了となった。平成30年度の就任辞退者1名分を含め、2名の兼任講師を採用したため、兼任・兼担は「兼8」となり認可時の計画どおりの配置になる。
- ・「発信英語ⅢA」「発信英語ⅢB」「発信英語ⅣA」「発信英語ⅣB」は、履修者数に合わせてクラス開講数の調整を行い、兼任講師1名、兼任講師2名の配置とした。これにより兼任・兼担は「兼8」から「兼3」に変更する。
- ・「応用英語ⅠA」「応用英語ⅠB」「応用英語ⅡA」「応用英語ⅡB」を担当する兼任講師1名が任期満了となったが、履修者数に合わせて調整した結果、後任の兼任講師を補充しないこととした。これにより兼任・兼担は「兼4」から「兼3」に変更する。
- ・外国人留学生の初年次日本語教育科目を新たに開設したため「日本語」を追加、兼任講師1名（「日本語理解」「日本語表現」担当者）を配置する。

- (注) ・ 2(1)一① 授業科目表に記入された各年度における変更内容（配当年次の変更、専任教員等の配置の変更、授業科目名の変更、新規科目の追加など）を箇条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ 変更内容には、授業科目の未開講や廃止については記入しないでください。
 - ・ 不要な年度（平成29年度開設であれば平成28年度）の表は適宜削除してください。

(2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計(A)	必修	選択	自由	計	
46 科目	149 科目	0 科目	195 科目	46 科目 [0]	150 科目 [1]	0 科目 [0]	196 科目 [1]	

- (注) ・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[]内に、設置時の計画からの増減を記入してください。（記入例：1科目減の場合：△1）

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由, 代替措置の有無
1	該当なし					
2						
3						

- (注) ・ 配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については記入しないでください。
 - ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由, 代替措置の有無
1	該当なし					
2						
3						

- (注) ・ 設置時の計画にあり、何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」として記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能なかぎり具体的に記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目(3)と廃止科目(4)の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計(A)}} = \frac{0}{195} = \boxed{0}\%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。
- ・ 「未開講科目と廃止科目の計」が、「(3)未開講科目」と「(4)廃止科目」の合計数となるように留意してください。

3 施設・設備の整備状況、経費

区 分		内 容				備 考					
(1) 校地等	区 分	専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計	借用期間及び面積 1年 60㎡ 3年 224㎡ 30年 14,731㎡ 60年 15,974㎡ 境界確定をするため土地整備計画を実施し分筆を行った。また、土地の寄附を受けたことなどによる変更。 (元)					
	校舎敷地	162,985㎡ 162,967㎡	0㎡	0㎡	162,985㎡ 162,967㎡						
	運動場用地	147,175㎡	0㎡	0㎡	147,175㎡						
	小 計	310,160㎡ 310,142㎡	0㎡	0㎡	310,160㎡ 310,142㎡						
	そ の 他	645,552㎡ 645,066㎡	0㎡	0㎡	645,552㎡ 645,066㎡						
	合 計	955,712㎡ 955,208㎡	0㎡	0㎡	955,712㎡ 955,208㎡						
(2) 校 舎	専 用	124,959㎡ 126,643㎡ (124,959㎡) -(126,643㎡)	共 用 (0㎡)	共用する他の学校等の専用 (0㎡)	計 124,959㎡ 126,643㎡ (124,959㎡) -(126,643㎡)	登記による面積の減及び区分変更。(元)					
	講 義 室	8室	演 習 室	9室	実験実習室		22室	情報処理学習施設	1室 (補助職員 0人)	語学学習施設	0 (補助職員 0人)
(3) 教 室 等	新設学部等の名称		室 数								
(4) 専任教員研究室	獣医学部		55 室								
(5) 図書・設備	新設学部等の名称	図 書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標 本 点	機械・器具の点数について、教育研究の充実のため教育研究の実施に伴う消耗品を購入したため(30)			
	獣医学部	13,673 [2,250] (13,673 [2,250]) -(7,924 [1,508])	55 [15] [55 [15]) -(50 [15])	12 [12] (12 [12])	752 (752) -(481)	30,587 18,241 (30,587) -(22,143)	210 (210) -(0)				
	計	13,673 [2,250] (13,673 [2,250]) -(7,924 [1,508])	55 [15] [55 [15]) -(50 [15])	12 [12] (12 [12])	752 (752) -(481)	30,587 18,241 (30,587) -(22,143)	210 (210) -(0)				
(6) 図 書 館	面 積		閲 覧 座 席 数		収 納 可 能 冊 数						
	2,160㎡		229席		102,758冊						
(7) 体 育 館	面 積		体育館以外のスポーツ施設の概要								
	2,768㎡		テニスコート3面 運動場 8,214㎡		トレーニングルーム1室						
(8) 経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度	申請時の物品購入契約書との齟齬による誤記を修正している(経費の見積金額には変更は生じていない。)その上で、教育の充実のため、1年次、2年次で必要な消耗品、ネット等回線経費、保守料を計上したことによる変更(30)		
		教員1人当り研究等	獣医学科	600千円	600千円	図書購入費	獣医学科	89,930千円		93,580千円	23,886千円
			獣医保健看護学科	600千円	600千円		獣医保健看護学科	9,350千円		2,140千円	107千円
		共同研究等	獣医学科	1,000千円	1,000千円	設備購入費	獣医学科	1,926,044千円 1,548,998千円		1,162,100千円 1,615,301千円	36,000千円
		獣医保健看護学科	1,000千円	1,000千円		獣医保健看護学科	481,511千円 587,250千円	290,525千円 403,825千円		9,000千円	
	学生1人当り納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次				
	獣医学科	2,500千円	2,436千円	2,436千円	2,436千円	2,436千円	2,436千円	2,436千円			
	獣医保健看護学科	1,530千円	1,470千円	1,470千円	1,470千円	—千円	—千円	—千円			
学生納付金以外の維持方法の概要		私立大学等経常費補助金、手数料									

- (注) ・ 設置時の計画を、申請書の様式第2号(その1の1)に準じて作成してください。(複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「(1)校地等」及び「(2)校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はAC対象学部等の数値を記入してください。)
- ・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨(所要時間・距離等)を「備考」に記入してください。
 - ・ 「(5)図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には令和元年5月1日現在の数値を記入してください。
 - ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「(元)」を「備考」に赤字で記入してください。
なお、昨年度の報告において赤字で見え消しした部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
 - ・ 校舎等建物の計画の変更(校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延)がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。
なお、昨年度の報告において赤字で見え消しした部分については、黒字で記入してください。
 - ・ 国立大学については「(8)経費の見積り及び維持方法の概要」は記載不要です。

4. 既設大学等の状況

大学の名称	岡山理科大学									備考
既設学部等の名称	修業 年限	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	学位又 は称号	平均入学 定員 超過率	定員変更 年度 (AC期間の 学科のみ)	開設 年度	所 在 地	
	年	人	年次 人	人		倍	年度	年度		
理学部	4	585	—	2275	学士(理学)	0.88	平成29	昭和39	—	
応用数学科	4	110	—	425	学士(理学)	0.96	平成29	昭和39	岡山市北区理大町1番1号	定員変更(15)
化学科	4	75	—	295	学士(理学)	0.82	平成29	昭和39	同上	定員変更(5)
応用物理学科	4	75	—	295	学士(理学)	0.72	平成29	昭和41	同上	定員変更(5)
物理科学専攻	4	45	—	175	学士(理学)	0.86	平成29	平成14	同上	定員変更(5)
臨床工学専攻	4	30	—	120	学士(理学)	0.52	平成29	平成14	同上	
基礎理学科	4	90	—	345	学士(理学)	0.99	平成29	昭和50	同上	定員変更(15)
生物化学科	4	95	—	370	学士(理学)	0.84	平成29	昭和63	同上	定員変更(10)
臨床生命科学科	4	95	—	370	学士(理学)	0.83	平成29	平成16	同上	定員変更(10)
動物学科	4	45	—	175	学士(理学)	1.00	平成29	平成20	同上	定員変更(5)
工学部	4	530	3年次 5	2100	学士(工学)	0.95	平成29	昭和61	—	
バイオ・応用化学科	4	85	—	330	学士(工学)	0.86	平成29	昭和61	岡山市北区理大町1番1号	定員変更(10)
機械システム工学科	4	90	—	355	学士(工学)	1.02	平成29	昭和61	同上	定員変更(5)
電気電子システム学科	4	70	—	280	学士(工学)	0.99	—	昭和61	同上	
情報工学科	4	95	—	370	学士(工学)	1.02	平成29	平成4	同上	定員変更(10)
知能機械工学科	4	55	—	220	学士(工学)	0.87	—	平成17	同上	
生命医療工学科	4	60	—	240	学士(工学)	0.71	—	平成19	同上	
建築学科	4	75	3年次 5	305	学士(工学)	1.07	—	平成23	同上	定員変更(5)
総合情報学部	4	100	—	380	学士(総合情報学)	1.08	平成29	平成9	—	
情報科学科	4	100	—	380	学士(総合情報学)	1.08	平成29	平成9	岡山市北区理大町1番1号	定員変更(20)
社会情報学科	4	—	—	—	学士(総合情報学)	—	—	平成9	同上	平成29年学生募集停止
生物地球学部	4	140	—	540	学士(理学)	1.05	平成29	平成24	—	
生物地球学科	4	140	—	540	学士(理学)	1.05	平成29	平成24	岡山市北区理大町1番1号	定員変更(20)
教育学部	4	130	—	520	学士(教育学)	1.05	—	平成28	—	
初等教育学科	4	70	—	280	学士(教育学)	1.10	—	平成28	岡山市北区理大町1番1号	
中等教育学科	4	60	—	240	学士(教育学)	1.00	—	平成28	同上	
経営学部	4	130	—	390	学士(経営学)	1.09	—	平成29	—	
経営学科	4	130	—	390	学士(経営学)	1.09	—	平成29	岡山市北区理大町1番1号	

大学の名称	岡山理科大学									備考
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学員定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	定員変更年度 (AC期間の 学科のみ)	開設年度	所在地	
	年	人	年次	人		倍	年度	年度		
獣医学部	-	200	-	400	学士(獣医学) 学士(獣医保健看護学)	1.00	-	平成30	-	
獣医学科	6	140	-	280	学士(獣医学)	1.13	-	平成30	今治市いこいの丘1-3	
獣医保健看護学科	4	60	-	120	学士(獣医保健看護学)	0.68	-	平成30	同上	
大学全体	-	1815	5	6605	-	-	-	-	-	
大学の名称	岡山理科大学大学院									備考
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学員定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	定員変更年度 (AC期間の 学科のみ)	開設年度	所在地	
	年	人	年次	人		倍	年度	年度		
理学研究科 修士課程	2	76	-	152	-	0.46	-	昭和49	-	
理学研究科 博士課程(後期)	3	13	-	39	博士(理学)	0.17	-	昭和53	-	
応用数学専攻 修士課程	2	6	-	12	修士(理学)	0.49	-	昭和55	岡山市北区理大町1番1号	
化学専攻 修士課程	2	16	-	32	修士(理学)	0.43	-	昭和49	同上	
応用物理学専攻 修士課程	2	13	-	26	修士(理学)	0.41	-	昭和49	同上	
総合理学専攻 修士課程	2	12	-	24	修士(理学)	0.28	-	昭和63	同上	
生物化学専攻 修士課程	2	13	-	26	修士(理学)	0.38	-	平成4	同上	
臨床生命科学専攻 修士課程	2	12	-	24	修士(理学)	0.83	-	平成20	同上	
動物学専攻 修士課程	2	4	-	8	修士(理学)	0.37	-	平成24	同上	
応用数学専攻 博士課程(後期)	3	4	-	12	博士(理学)	0.16	-	昭和62	同上	
材質理学専攻 博士課程(後期)	3	9	-	27	博士(理学)	0.18	-	昭和53	同上	

大学の名称	岡山理科大学大学院									備考
既設学部等の名称	修業 年限	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	学位又 は称号	平均入学 定員 超過率	定員変更 年度 (AC期間の 学科のみ)	開設 年度	所在地	
	年	人	年次	人		倍	年度	年度		
工学研究科 修士課程	2	66	—	132	—	0.52	—	平成2	—	
工学研究科 博士課程(後期)	3	5	—	15	博士(工 学)	0.46	—	平成2	—	
応用化学専攻 修士課程	2	13	—	26	修士(工 学)	0.42	—	平成2	岡山市北区理大町1番1号	
機械システム工学専 攻 修士課程	2	13	—	26	修士(工 学)	0.49	—	平成2	同上	
電子工学専攻 修士課程	2	8	—	16	修士(工 学)	0.49	—	平成2	同上	
情報工学専攻 修士課程	2	10	—	20	修士(工 学)	0.30	—	平成8	同上	
知能機械工学専攻 修士課程	2	8	—	16	修士(工 学)	0.87	—	平成21	同上	
生体医工学専攻 修士課程	2	6	—	12	修士(工 学)	0.58	—	平成23	同上	
建築学専攻 修士課程	2	8	—	16	修士(工 学)	0.62	—	平成23	同上	
システム科学専攻 博士課程(後期)	3	5	—	15	博士(工 学)	0.46	—	平成2	同上	
総合情報研究科 修士課程	2	13	—	26	—	0.38	—	平成13	—	
総合情報研究科 博士課程(後期)	3	2	—	6	—	1.16	—	平成15	—	
情報科学専攻 修士課程	2	7	—	14	修士(総合 情報)	0.42	—	平成13	岡山市北区理大町1番1号	
社会情報専攻 修士課程	2	6	—	12	修士(総合 情報)	0.33	—	平成13	同上	
数理・環境システム専攻 博士課程(後期)	3	2	—	6	博士(学 術)	1.16	—	平成15	同上	
生物地球科学研究科 修士課程	2	12	—	24	—	1.03	—	平成28	—	
生物地球科学専攻 修士課程	2	12	—	24	修士(理 学)	1.03	—	平成28	岡山市北区理大町1番1号	
大学院全体	—	187	—	394	—	—	—	—	—	

大学の名称	倉敷芸術科学大学									備考
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	定員変更年度 (AC期間の 学科のみ)	開設年度	所在地	
	年	人	年次 人	人		倍	年度	年度		
芸術学部	4	105	3年次 2	424	学士 (芸術)	0.81	—	平成7	岡山県倉敷市連島町 西之浦2640番地	
メディア映像学科	4	50	3年次 2	204	学士 (芸術)	0.99	—	平成16	同上	
デザイン芸術学科	4	55	—	220	学士 (芸術)	0.66	—	平成20	同上	
産業科学技術学部	4	—	3年次 —	—	学士 (産業科学 技術)	—	—	平成7		
経営情報学科	4	—	3年次 —	—	学士 (産業科学 技術)	—	—	平成23	同上	平成29年学生募集 停止 平成29年3年次編 入学生募集停止
生命科学部	4	240	3年次 2	974	学士 (生命科 学) 学士 (健康科 学)	0.78	—	平成16	同上	
生命科学科	4	50	—	200	学士 (生命科学)	0.71	—	平成16	同上	
健康科学科	4	80	—	330	学士 (健康科学)	0.68	—	平成16	同上	平成31年鍼灸専攻 学生募集停止 平成31年専攻制度 廃止 平成30年定員変更 (△5)
動物生命科学科	4	55	3年次 2	224	学士 (生命科学)	0.71	—	平成18	同上	平成31年定員変更 (△5)
生命医科学科	4	55	—	220	学士 (生命科学)	1.10	—	平成20	同上	平成31年定員変更 (5)
危機管理学部	4	90	—	270	学士 (危機管理)	0.59	—	平成29	同上	
危機管理学科	4	90	—	270	学士 (危機管理)	0.59	—	平成29	同上	
大学全体	4	435	4	1668	—	—	—	—	—	
大学の名称	倉敷芸術科学大学大学院									備考
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	定員変更年度 (AC期間の 学科のみ)	開設年度	所在地	
	年	人	年次 人	人		倍	年度	年度		
芸術研究科 修士課程	2	10	—	20	修士 (芸術)	0.35	—	平成11	岡山県倉敷市連島町 西之浦2640番地	
芸術研究科 博士課程(後期)	3	4	—	12	博士 (芸術)	0.33	—	平成13	同上	
美術専攻 修士課程	2	10	—	20	修士 (芸術)	0.35	—	平成11	岡山県倉敷市連島町 西之浦2640番地	
芸術制作表現専攻 博士課程(後期)	3	4	—	12	博士 (芸術)	0.33	—	平成13	同上	
産業科学技術研究科 修士課程	2	8	—	16	修士 (産業科学 技術)	0.12	—	平成11	同上	
産業科学技術研究科 博士課程(後期)	3	2	—	6	博士 (工学)	0.00	—	平成13	同上	
計算機科学専攻 博士課程(後期)	3	—	—	—	博士 (工学)	—	—	平成13	同上	平成29年学生募集 停止
機能物質化学専攻 修士課程	2	8	—	16	修士 (産業科学 技術)	0.12	—	平成11	同上	
機能物質化学専攻 博士課程(後期)	3	2	—	6	博士 (工学)	0.00	—	平成13	同上	
人間文化研究科 修士課程	2	15	—	30	修士 (学術)	0.19	—	平成11	同上	
人間文化専攻 修士課程	2	15	—	30	修士 (学術)	0.19	—	平成11	同上	

大学の名称	倉敷芸術科学大学大学院									備考
既設学部等の名称	修業 年限	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	学位又 は称号	平均入学 定員 超過率	定員変更 年度 (AC期間の 学科のみ)	開設 年度	所在地	
	年	人	年次 人	人		倍	年度	年度		
大学院(通信制) 芸術研究科 修士課程 美術専攻(通信制) 修士課程	2	10	—	20	修士 (芸術)	0.05	—	平成14	岡山県倉敷市連島町 西之浦2640番地	
産業科学技術研究科 修士課程 機能物質化学専攻(通信制) 修士課程	2	20	—	40	修士 (産業科学技 術)	0.02	—	平成14	同上	
人間文化研究科 修士課程 人間文化専攻(通信制) 修士課程	2	30	—	60	修士 (学術)	0.03	—	平成14	同上	
大学院全体	—	99	—	204	—	—	—	—	同上	

大学の名称	千葉科学大学									備考
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	定員変更年度 (AC期間の 学科のみ)	開設年度	所在地	
	年	人	年次 人	人		倍	年度	年度		
薬学部										
薬学科	6	120	—	720	学士 (薬学)	0.91	—	平成18	千葉県銚子市潮見町3	
生命薬科学科	4	—	—	—	学士 (生命薬科学)	—	—	平成22	同上	平成31年度より学生募集停止
危機管理学部						0.58				
危機管理学科	4	120	—	420	学士 (危機管理)	0.69	—	平成16	同上	平成31年度入学定員増(20人)
環境危機管理学科	4	—	—	—	学士 (危機管理)	—	—	平成24	同上	平成31年度より学生募集停止
保健医療学科	4	80	—	320	学士 (危機管理)	0.77	—	平成21	同上	
航空技術危機管理学科	4	40	—	160	学士 (危機管理)	0.29	—	平成22	同上	
動物危機管理学科	4	60	—	180	学士 (危機管理)	0.48	—	平成24	同上	平成31年度入学定員増(20人)
看護学部										
看護学科	4	80	—	320	学士 (看護学)	1.00	—	平成26	同上	
大学全体	—	500	—	2120	—	—	—	—	—	
大学の名称	千葉科学大学大学院									備考
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	定員変更年度 (AC期間の 学科のみ)	開設年度	所在地	
	年	人	年次 人	人		倍	年度	年度		
薬学研究科										
薬学専攻										
博士課程	4	3	—	12	博士 (薬学)	0.08	—	平成24	千葉県銚子市潮見町3	
薬科学専攻										
修士課程	2	10	—	20	修士 (薬科学)	0.20	—	平成22	同上	
博士課程(後期)	3	5	—	15	博士 (薬科学)	0.06	—	平成22	同上	
危機管理学研究科										
危機管理学専攻										
修士課程	2	5	—	10	博士 (危機管理学)	0.70	—	平成20	同上	
博士課程(後期)	3	3	—	9	博士 (危機管理学)	0.66	—	平成22	同上	
看護学研究科										
看護学専攻										
修士課程	2	5	—	10	修士 (看護学)	1.00	—	平成30	同上	
大学院全体	—	31	—	76	—	—	—	—	—	

(注) ・本調査の対象となっている大学等の設置者が既に設置している全ての大学(大学院含む)、短期大学及び高等専門学校についてそれぞれの学校ごとに、報告年度の5月1日現在の状況を記入してください。

(専攻科及び別科を除く)。

・学部の学科または研究科の専攻等、「入学定員を定めている組織」ごとに全ての組織を記入してください。

※「入学定員を定めている組織」ごとには、課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めず、履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。

・本年度AC対象となる学部等については、必ず下線を引いてください。

・「平均入学定員超過率」の考え方は「大学設置等に係る提出書類の作成の手引き(平成31年度改訂版)」と同じです。

・「備考」の欄については、学年進行中の入学定員の増減や学生募集停止など、収容定員に影響のある情報を記入してください。

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月>
		担当授業科目名
専	教授	佐々木 伸雄 (69) (高) <令和2年4月>
		動物看護技術学実習Ⅲ 動物臨床検査学実習Ⅱ 外科動物看護技術学 外科動物看護技術学実習 臨床動物看護学各論Ⅲ 病院動物看護実習 救急・終末医療看護学 獣医看護実務実習Ⅰ 獣医看護実務実習Ⅱ プレゼミナールⅠ プレゼミナールⅡ プレゼミナールⅢ プレゼミナールⅣ VPP特論 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ
専	准教授	小野 文子 (57) <平成30年4月>
		動物関連キャリア概論※ 動物看護学概論 実験動物処置管理演習 獣医病態モデル学※ 実験動物看護実習 動物の疼痛と福祉※ プレゼミナールⅠ プレゼミナールⅡ プレゼミナールⅢ プレゼミナールⅣ VPP特論 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ
専	准教授	古本 佳代 (44) <平成31年4月>
		実験動物学実習Ⅰ 動物看護技術学実習Ⅰ 動物看護技術学実習Ⅱ 臨床動物看護学演習 実験動物飼養管理学 実験動物看護実習 実験動物学実習Ⅱ プレゼミナールⅠ プレゼミナールⅡ プレゼミナールⅢ プレゼミナールⅣ 実験動物福祉特論 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月>
		担当授業科目名
専	准教授	小野 文子 (58) <平成30年4月>
		動物関連キャリア概論※ 動物看護学概論 実験動物処置管理演習 獣医病態モデル学※ 実験動物看護実習 動物の疼痛と福祉※ プレゼミナールⅠ プレゼミナールⅡ プレゼミナールⅢ プレゼミナールⅣ VPP特論 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ
専	准教授	古本 佳代 (45) <平成31年4月>
		実験動物学実習Ⅰ 動物看護技術学実習Ⅰ 動物看護技術学実習Ⅱ 臨床動物看護学演習 実験動物飼養管理学 実験動物看護実習 実験動物学実習Ⅱ プレゼミナールⅠ プレゼミナールⅡ プレゼミナールⅢ プレゼミナールⅣ 実験動物福祉特論 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月>
		担当授業科目名
専	准教授	小野 文子 (59) <平成30年4月>
		動物関連キャリア概論※ 動物看護学概論 実験動物処置管理演習 獣医病態モデル学※ 実験動物看護実習 動物の疼痛と福祉※ プレゼミナールⅠ プレゼミナールⅡ プレゼミナールⅢ プレゼミナールⅣ VPP特論 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ
専	准教授	古本 佳代 (46) <平成31年4月>
		実験動物学実習Ⅰ 動物看護技術学実習Ⅰ 動物看護技術学実習Ⅱ 臨床動物看護学演習 実験動物飼養管理学 実験動物看護実習 実験動物学実習Ⅱ プレゼミナールⅠ プレゼミナールⅡ プレゼミナールⅢ プレゼミナールⅣ 実験動物福祉特論 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月>
		担当授業科目名
専	准教授	松山 秀一 (39) <平成30年4月>
		生産農学概論 産業動物看護学 生殖工学※ 生殖工学実習 産業動物看護学実習 人工授精学実習 プレゼミナールⅠ プレゼミナールⅡ プレゼミナールⅢ プレゼミナールⅣ 産業動物特論 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ
専	准教授	渡邊 剛央 (47) <平成30年4月>
		国際関係論A 国際関係論B 日本国憲法 法学A 法学B キャリア形成講座A キャリア形成講座B インターンシップ概論 インターンシップA インターンシップB インターンシップC
専	准教授	小沼 守 (50) <令和2年4月>
		栄養学 動物看護技術学実習Ⅲ 動物臨床検査学実習Ⅰ 臨床動物看護学各論Ⅰ 臨床動物看護学演習 臨床動物看護技術学実習 病院動物看護実習 チーム獣医療学※ 獣医看護実務実習Ⅰ 獣医看護実務実習Ⅱ プレゼミナールⅠ プレゼミナールⅡ プレゼミナールⅢ プレゼミナールⅣ 動物とヒトの健康と福祉特論 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月>
		担当授業科目名
専	准教授	渡邊 剛央 (48) <平成30年4月>
		国際関係論A 国際関係論B 日本国憲法 法学A 法学B キャリア形成講座A キャリア形成講座B インターンシップ概論 インターンシップA インターンシップB インターンシップC
専	准教授	

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月>
		担当授業科目名
専	准教授	渡邊 剛央 (49) <平成30年4月>
		国際関係論A 国際関係論B 日本国憲法 法学A 法学B キャリア形成講座A キャリア形成講座B インターンシップ概論 インターンシップA インターンシップB インターンシップC
専	准教授	

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月>
		担当授業科目名
兼任	講師	小沼 守 (48) <平成30年4月>
		栄養学
専	講師	戸田 修司 (44) <平成30年4月>
		政治学A 政治学B 社会と人間A 社会と人間B 文章表現法基礎編A 文章表現法基礎編B 教養演習A 教養演習B キャリア形成講座A キャリア形成講座B インターンシップ概論 インターンシップA インターンシップB インターンシップC 文章表現法応用編A 文章表現法応用編B
専	講師	小林 忠資 (36) <平成30年4月>
		プレゼンテーション基礎編A プレゼンテーション基礎編B キャリア形成講座A キャリア形成講座B 学びの基礎論A 学びの基礎論B インターンシップ概論 インターンシップA インターンシップB インターンシップC プレゼンテーション応用編A プレゼンテーション応用編B
専	助教	関口 路子 (39) <平成31年4月>
		実験動物学実習 I 動物看護技術学実習 I 動物看護技術学実習 II 動物臨床検査学実習 II 臨床動物看護学演習 臨床動物看護技術学実習 実験動物看護実習 実験動物学実習 II 生殖工学※ 生殖工学実習 産業動物看護学実習

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月>
		担当授業科目名
専	講師	戸田 修司 (45) <平成30年4月>
		政治学A 政治学B 社会と人間A 社会と人間B 文章表現法基礎編A 文章表現法基礎編B 教養演習A 教養演習B キャリア形成講座A キャリア形成講座B インターンシップ概論 インターンシップA インターンシップB インターンシップC 文章表現法応用編A 文章表現法応用編B
専	講師	小林 忠資 (37) <平成30年4月>
		プレゼンテーション基礎編A プレゼンテーション基礎編B キャリア形成講座A キャリア形成講座B 学びの基礎論A 学びの基礎論B インターンシップ概論 インターンシップA インターンシップB インターンシップC プレゼンテーション応用編A プレゼンテーション応用編B

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月>
		担当授業科目名
専	講師	戸田 修司 (46) <平成30年4月>
		政治学A 政治学B 社会と人間A 社会と人間B 文章表現法基礎編A 文章表現法基礎編B 教養演習A 教養演習B キャリア形成講座A キャリア形成講座B インターンシップ概論 インターンシップA インターンシップB インターンシップC 文章表現法応用編A 文章表現法応用編B
専	講師	小林 忠資 (38) <平成30年4月>
		プレゼンテーション基礎編A プレゼンテーション基礎編B キャリア形成講座A キャリア形成講座B 学びの基礎論A 学びの基礎論B インターンシップ概論 インターンシップA インターンシップB インターンシップC プレゼンテーション応用編A プレゼンテーション応用編B

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月>
		担当授業科目名

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月>
		担当授業科目名
専	教授	永幡 肇 (65) (高) <平成31年4月>
		生産農学概論 産業動物看護学 産業動物疾病予防管理学 産業動物看護学実習 人工授精学実習 プレゼミナールⅠ プレゼミナールⅡ プレゼミナールⅢ プレゼミナールⅣ 産業動物特論 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ
専	教授	内田 英二 (60) <平成31年4月>
		栄養学 動物看護技術学実習Ⅰ 動物臨床検査学Ⅱ※ 動物臨床検査学実習Ⅰ 臨床動物看護学総論 臨床動物看護学演習 病院動物看護実習 高齢動物看護学 獣医看護実務実習Ⅰ 獣医看護実務実習Ⅱ プレゼミナールⅠ プレゼミナールⅡ プレゼミナールⅢ プレゼミナールⅣ 動物とヒトの健康と福祉特論 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ
専	講師	佐伯 香織 (32) <平成31年4月>
		動物看護技術学実習Ⅱ 動物看護技術学実習Ⅲ 外科動物看護技術学実習 臨床動物看護学各論Ⅰ 臨床動物看護学演習 臨床動物看護技術学実習 病院動物看護実習 チーム獣医学※ 救急・終末医療看護学 獣医看護実務実習Ⅰ 獣医看護実務実習Ⅱ 動物とヒトの健康と福祉特論

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月>
		担当授業科目名
専	教授	永幡 肇 (66) (高) <平成31年4月>
		生産農学概論 産業動物看護学 産業動物疾病予防管理学 産業動物看護学実習 人工授精学実習 プレゼミナールⅠ プレゼミナールⅡ プレゼミナールⅢ プレゼミナールⅣ 産業動物特論 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ
専	教授	内田 英二 (61) <平成31年4月>
		栄養学 動物看護技術学実習Ⅰ 動物臨床検査学Ⅱ※ 動物臨床検査学実習Ⅰ 臨床動物看護学総論 臨床動物看護学演習 病院動物看護実習 高齢動物看護学 獣医看護実務実習Ⅰ 獣医看護実務実習Ⅱ プレゼミナールⅠ プレゼミナールⅡ プレゼミナールⅢ プレゼミナールⅣ 動物とヒトの健康と福祉特論 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ
専	講師	佐伯 香織 (33) <平成31年4月>
		動物看護技術学実習Ⅱ 動物看護技術学実習Ⅲ 外科動物看護技術学実習 臨床動物看護学各論Ⅰ 臨床動物看護学演習 臨床動物看護技術学実習 病院動物看護実習 チーム獣医学※ 救急・終末医療看護学 獣医看護実務実習Ⅰ 獣医看護実務実習Ⅱ 動物とヒトの健康と福祉特論

専任・兼担・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月>
		担当授業科目名
兼担	教授	吉川 泰弘 (70) <平成30年4月> 動物関連キャリア概論※ 獣医事法規 人獣共通感染症学 動物危機管理学 現代人の科学C
兼担	教授	北川 均 (65) <平成30年4月> 動物関連キャリア概論※ 病院動物看護実習
兼担	教授	菅又 昌実 (64) <平成30年4月> 動物関連キャリア概論※ 情報リテラシー 動物公衆衛生学
兼担	教授	手島 玲子 (62) <平成30年4月> 動物関連キャリア概論※ 食品衛生学 レギュラトリー科学※

専任・兼担・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月>
		担当授業科目名
専	講師	久枝 啓一 (55) <平成31年4月> 産業動物看護学実習 人工授精学 人工授精学実習 家畜疾病学 家畜繁殖学 プレゼミナールⅠ プレゼミナールⅡ プレゼミナールⅢ プレゼミナールⅣ 産業動物特論 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ
専	助教	野原 正勝 (33) <平成31年4月> 実験動物学実習Ⅰ 動物看護技術学実習Ⅰ 動物看護技術学実習Ⅱ 動物臨床検査学実習Ⅱ 実験動物看護実習 実験動物学実習Ⅱ 生殖工学実習 産業動物看護学実習
兼担	教授	吉川 泰弘 (71) <平成30年4月> 動物関連キャリア概論※ 獣医事法規 人獣共通感染症学 動物危機管理学 現代人の科学C
兼担	教授	北川 均 (66) <平成30年4月> 動物関連キャリア概論※ 病院動物看護実習
兼担	教授	手島 玲子 (63) <平成30年4月> 動物関連キャリア概論※ 食品衛生学 レギュラトリー科学※

専任・兼担・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月>
		担当授業科目名
専	講師	久枝 啓一 (56) <平成31年4月> 産業動物看護学実習 人工授精学 人工授精学実習 家畜疾病学 家畜繁殖学 プレゼミナールⅠ プレゼミナールⅡ プレゼミナールⅢ プレゼミナールⅣ 産業動物特論 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ
専	助教	野原 正勝 (34) <平成31年4月> 実験動物学実習Ⅰ 動物看護技術学実習Ⅰ 動物看護技術学実習Ⅱ 動物臨床検査学実習Ⅱ 実験動物看護実習 実験動物学実習Ⅱ 生殖工学実習 産業動物看護学実習
専	助教	宮部 真裕 (30) <令和2年4月> 動物看護技術学実習Ⅲ 動物臨床検査学実習Ⅱ 外科動物看護技術学実習 臨床動物看護学演習 臨床動物看護技術学実習 病院動物看護実習 獣医看護実務実習Ⅰ 獣医看護実務実習Ⅱ
兼担	教授	吉川 泰弘 (72) <平成30年4月> 動物関連キャリア概論※ 獣医事法規 人獣共通感染症学 動物危機管理学 現代人の科学C
兼担	教授	北川 均 (67) <平成30年4月> 動物関連キャリア概論※ 病院動物看護実習
兼担	教授	手島 玲子 (64) <平成30年4月> 動物関連キャリア概論※ 食品衛生学 レギュラトリー科学※

専任・兼担・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞
		担当授業科目名
兼担	教授	黒木 俊郎 (59) ＜平成30年4月＞
		動物関連キャリア概論※ 医動物学 獣疫学
兼担	教授	飯田 貴次 (63) ＜平成30年4月＞
		動物関連キャリア概論※ 動物園・水族館学※
兼担	教授	榎林 陽一 (64) ＜平成30年4月＞
		動物関連キャリア概論※ 生物物理学 トランスレーショナル・リサーチ
兼担	教授	俵 修一 (61) ＜平成30年4月＞
		動物関連キャリア概論※ 化学
兼担	教授	尾崎 博 (65) ＜平成30年4月＞
		動物関連キャリア概論※ 動物薬理学総論 フレッシュマンセミナー
兼担	教授	水野 理介 (52) ＜平成30年4月＞
		動物関連キャリア概論※ 生命科学実習 動物薬理学各論 動物薬理学実習 動物毒性学実習
兼担	教授	柴原 壽行 (66) ＜平成30年4月＞
		動物関連キャリア概論※
兼担	教授	宇根 有美(ユミ) (62) ＜平成30年4月＞
		動物関連キャリア概論※ 動物園・水族館学※ エキゾチックアニマル学※
兼担	教授	岩田 恵理 (53) ＜平成30年4月＞
		人間・動物関係学 愛玩動物飼育管理論 動物看護技術学実習Ⅲ 病院動物看護実習 動物行動学 動物の疼痛と福祉※

専任・兼担・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞
		担当授業科目名
兼担	教授	黒木 俊郎 (60) ＜平成30年4月＞
		動物関連キャリア概論※ 医動物学 獣疫学
兼担	教授	飯田 貴次 (64) ＜平成30年4月＞
		動物関連キャリア概論※ 動物園・水族館学※
兼担	教授	俵 修一 (62) ＜平成30年4月＞
		動物関連キャリア概論※ 化学
兼担	教授	尾崎 博 (66) ＜平成30年4月＞
		動物関連キャリア概論※ 動物薬理学総論 フレッシュマンセミナー
兼担	教授	水野 理介 (53) ＜平成30年4月＞
		動物関連キャリア概論※ 生命科学実習 動物薬理学各論 動物薬理学実習 動物毒性学実習
兼担	教授	柴原 壽行 (67) ＜平成30年4月＞
		動物関連キャリア概論※
兼担	教授	宇根 有美(ユミ) (63) ＜平成30年4月＞
		動物関連キャリア概論※ 動物園・水族館学※ エキゾチックアニマル学※
兼担	教授	岩田 恵理 (54) ＜平成30年4月＞
		人間・動物関係学 愛玩動物飼育管理論 動物看護技術学実習Ⅲ 病院動物看護実習 動物行動学 動物の疼痛と福祉※

専任・兼担・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞
		担当授業科目名
兼担	教授	黒木 俊郎 (61) ＜平成30年4月＞
		動物関連キャリア概論※ 医動物学 獣疫学
兼担	教授	飯田 貴次 (65) ＜平成30年4月＞
		動物関連キャリア概論※ 動物園・水族館学※
兼担	教授	俵 修一 (63) ＜平成30年4月＞
		動物関連キャリア概論※ 化学
兼担	教授	尾崎 博 (67) ＜平成30年4月＞
		動物関連キャリア概論※ 動物薬理学総論 フレッシュマンセミナー
兼担	教授	水野 理介 (54) ＜平成30年4月＞
		動物関連キャリア概論※ 生命科学実習 動物薬理学各論 動物薬理学実習 動物毒性学実習
兼担	教授	柴原 壽行 (68) ＜平成30年4月＞
		動物関連キャリア概論※
兼担	教授	宇根 有美(ユミ) (64) ＜平成30年4月＞
		動物関連キャリア概論※ 動物園・水族館学※ エキゾチックアニマル学※
兼担	教授	岩田 恵理 (55) ＜平成30年4月＞
		人間・動物関係学 愛玩動物飼育管理論 動物看護技術学実習Ⅲ 病院動物看護実習 動物行動学 動物の疼痛と福祉※

専任・兼担・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月>
		担当授業科目名
兼担	教授	汾陽 光盛 (64) <平成30年4月>
		生命科学実習
兼担	教授	江藤 真澄 (51) <平成30年4月>
		動物分子生物学 生命科学実習 動物生化学 専門英語ⅠA 専門英語ⅡB
		九郎丸 正道 (63) <平成30年4月>
		生命科学実習 動物形態機能学Ⅰ 動物形態機能学実習
		邊見 弘明 (44) <平成31年4月>
		動物免疫学
兼担	教授	西木 禎一 (52) <平成31年4月>
		動物毒性学実習 獣医病態モデル学※ レギュラトリー科学※
		森川 茂 (58) <平成31年4月>
兼担	教授	動物微生物学実習 バイオセーフティ学
		前多 敬一郎 (61) <令和3年4月>
兼任	講師	遺伝育種学※
		前多 敬一郎 (61) <平成31年4月>
兼担	教授	遺伝育種学※
		門平 睦代 (61) <平成31年4月>
兼担	教授	専門英語ⅡA
		星 史雄 (55) <平成31年4月>
兼担	教授	臨床動物栄養学※ 病院動物看護実習

専任・兼担・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月>
		担当授業科目名
兼担	教授	汾陽 光盛 (65) <平成30年4月>
		生命科学実習
兼担	教授	江藤 真澄 (52) <平成30年4月>
		動物分子生物学 生命科学実習 動物生化学 専門英語ⅠA 専門英語ⅡB
		九郎丸 正道 (64) <平成30年4月>
		生命科学実習 動物形態機能学Ⅰ 動物形態機能学実習
		邊見 弘明 (45) <平成31年4月>
		動物免疫学
兼担	教授	西木 禎一 (53) <平成31年4月>
		動物毒性学実習 獣医病態モデル学※ レギュラトリー科学※
		森川 茂 (59) <平成31年4月>
兼担	教授	動物微生物学実習 バイオセーフティ学
兼担	教授	
兼担	教授	
兼担	教授	星 史雄 (56) <平成30年4月>
		臨床動物栄養学※ 病院動物看護実習

専任・兼担・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月>
		担当授業科目名
兼担	教授	汾陽 光盛 (66) <平成30年4月>
		生命科学実習
兼担	教授	江藤 真澄 (53) <平成30年4月>
		動物分子生物学 生命科学実習 動物生化学 専門英語ⅠA 専門英語ⅡB
		九郎丸 正道 (65) <平成30年4月>
		生命科学実習 動物形態機能学Ⅰ 動物形態機能学実習
		邊見 弘明 (46) <平成31年4月>
		動物免疫学
兼担	教授	西木 禎一 (54) <平成31年4月>
		動物毒性学実習 獣医病態モデル学※ レギュラトリー科学※
		森川 茂 (60) <平成31年4月>
兼担	教授	動物微生物学実習 バイオセーフティ学
兼担	教授	
兼担	教授	
兼担	教授	星 史雄 (57) <平成30年4月>
		臨床動物栄養学※ 病院動物看護実習

専任・兼担・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月>
		担当授業科目名
兼担	教授	柳井 徳磨 (63) <平成31年4月>
		野生動物学 動物園・水族館学※ エキゾチックアニマル学※ 生物多様性保全論 現代人の科学A
兼任	講師	柳井 徳磨 (63) <平成30年4月>
		現代人の科学A
兼担	教授	稲葉 俊夫 (65) <令和3年4月>
		人工授精学実習
兼担	教授	田口 純 (55) <平成30年4月>
		総合英語ⅠA 総合英語ⅠB 総合英語ⅡA 総合英語ⅡB 総合英語ⅢA 総合英語ⅢB 総合英語ⅣA 総合英語ⅣB 応用英語ⅠA 応用英語ⅠB 応用英語ⅡA 応用英語ⅡB 実用英語(アカデミックライティング) 実用英語(プレゼンテーション) TOEICセミナーⅠ TOEICセミナーⅡ 海外文化研修
兼担	教授	西村 次郎 (62) <平成30年4月>
		スポーツとフィールド科学(エコツーリズムのための野外スポーツ) スポーツとフィールド科学(スキー)
兼担	教授	寺田 盛紀 (66) <平成30年4月>
		企業と人間A 企業と人間B
兼担	教授	中村 修 (60) <平成31年4月>
		企業情報特論A 企業情報特論B
兼担	教授	財部 健一 (66) <平成30年4月>
		現代人の科学B

専任・兼担・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月>
		担当授業科目名
兼担	教授	柳井 徳磨 (64) <平成31年4月>
		野生動物学 動物園・水族館学※ エキゾチックアニマル学※ 生物多様性保全論 現代人の科学A
兼任	講師	柳井 徳磨 (64) <平成30年4月>
		現代人の科学A
兼担	教授	稲葉 俊夫 (66) <令和3年4月>
		人工授精学実習
兼担	教授	田口 純 (56) <平成30年4月>
		総合英語ⅠA 総合英語ⅠB 総合英語ⅡA 総合英語ⅡB 総合英語ⅢA 総合英語ⅢB 総合英語ⅣA 総合英語ⅣB 応用英語ⅠA 応用英語ⅠB 応用英語ⅡA 応用英語ⅡB 実用英語(アカデミックライティング) 実用英語(プレゼンテーション) TOEICセミナーⅠ TOEICセミナーⅡ 海外文化研修
兼担	教授	西村 次郎 (63) <平成30年4月>
		スポーツとフィールド科学(エコツーリズムのための野外スポーツ) スポーツとフィールド科学(スキー)
兼担	教授	寺田 盛紀 (67) <平成30年4月>
		企業と人間A 企業と人間B
兼担	教授	中村 修 (61) <平成31年4月>
		企業情報特論A 企業情報特論B
兼担	教授	財部 健一 (67) <平成30年4月>
		現代人の科学B

専任・兼担・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月>
		担当授業科目名
兼担	教授	柳井 徳磨 (65) <平成31年4月>
		野生動物学 動物園・水族館学※ エキゾチックアニマル学※ 生物多様性保全論 現代人の科学A
兼担	教授	稲葉 俊夫 (67) <令和3年4月>
		人工授精学実習
兼担	教授	田口 純 (57) <平成30年4月>
		総合英語ⅠA 総合英語ⅠB 総合英語ⅡA 総合英語ⅡB 総合英語ⅢA 総合英語ⅢB 総合英語ⅣA 総合英語ⅣB 応用英語ⅠA 応用英語ⅠB 応用英語ⅡA 応用英語ⅡB 実用英語(アカデミックライティング) 実用英語(プレゼンテーション) TOEICセミナーⅠ TOEICセミナーⅡ 海外文化研修
兼担	教授	西村 次郎 (64) <平成30年4月>
		スポーツとフィールド科学(エコツーリズムのための野外スポーツ) スポーツとフィールド科学(スキー)
兼担	教授	中村 修 (62) <平成31年4月>
		企業情報特論A 企業情報特論B
兼担	教授	財部 健一 (68) <平成30年4月>
		現代人の科学B

専任・兼担・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月>
		担当授業科目名
兼担	准教授	山田 裕 (67) <平成30年4月> 動物関連キャリア概論※ 産業動物看護学実習
兼担	准教授	伊豆 弥生 (39) <平成30年4月> 動物関連キャリア概論※ 動物実験学※ 臨床動物看護学各論Ⅱ※ 獣医病態モデル学※ 専門英語ⅠA 専門英語ⅡB
兼担	准教授	片山 圭一 (41) <平成30年4月> 動物関連キャリア概論※ 生命科学実習 動物病理学 専門英語ⅠB
兼担	准教授	北村 真一 (42) <平成30年4月> 動物関連キャリア概論※
兼担	准教授	畑 明寿 (35) <平成30年4月> 動物関連キャリア概論※ 動物臨床検査学Ⅰ 動物臨床検査学Ⅱ※ 動物臨床検査学実習Ⅰ 動物臨床検査学実習Ⅱ
兼担	准教授	村田 拓也 (55) <平成30年4月> 生命科学 生命科学実習 動物生理学
兼担	准教授	松井 利康 (40) <平成30年4月> 生命科学実習 動物形態機能学Ⅱ 動物形態機能学実習
兼担	准教授	我妻 玲 (47) <平成30年4月> 生命科学実習 生物統計 健康の科学 生涯スポーツ
兼担	准教授	渡辺 俊平 (36) <平成31年4月> 動物微生物学 動物微生物学実習

専任・兼担・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月>
		担当授業科目名
兼担	准教授	山田 裕 (68) <平成30年4月> 動物関連キャリア概論※ 産業動物看護学実習
兼担	准教授	伊豆 弥生 (40) <平成30年4月> 動物関連キャリア概論※ 動物実験学※ 臨床動物看護学各論Ⅱ※ 獣医病態モデル学※ 専門英語ⅠA 専門英語ⅡB
兼担	准教授	畑 明寿 (36) <平成30年4月> 動物関連キャリア概論※ 情報リテラシー 動物臨床検査学Ⅰ 動物臨床検査学Ⅱ※ 動物臨床検査学実習Ⅰ 動物臨床検査学実習Ⅱ
兼担	准教授	村田 拓也 (56) <平成30年4月> 生命科学 生命科学実習 動物生理学
兼担	准教授	松井 利康 (41) <平成30年4月> 生命科学実習 動物形態機能学Ⅱ 動物形態機能学実習
兼担	准教授	渡辺 俊平 (37) <平成31年4月> 動物微生物学 動物微生物学実習

専任・兼担・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月>
		担当授業科目名
兼担	准教授	山田 裕 (69) <平成30年4月> 動物関連キャリア概論※ 産業動物看護学実習
兼担	准教授	伊豆 弥生 (41) <平成30年4月> 動物関連キャリア概論※ 動物実験学※ 臨床動物看護学各論Ⅱ※ 獣医病態モデル学※ 専門英語ⅠA 専門英語ⅡB
兼担	准教授	畑 明寿 (37) <平成30年4月> 動物関連キャリア概論※ 動物臨床検査学Ⅰ 動物臨床検査学Ⅱ※ 動物臨床検査学実習Ⅰ 動物臨床検査学実習Ⅱ
兼担	准教授	村田 拓也 (57) <平成30年4月> 生命科学 生命科学実習 動物生理学
兼担	准教授	松井 利康 (42) <平成30年4月> 生命科学実習 動物形態機能学Ⅱ 動物形態機能学実習
兼担	准教授	渡辺 俊平 (38) <平成31年4月> 動物微生物学 動物微生物学実習

専任・兼担・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月>
		担当授業科目名
兼担	准教授	齋藤(春末)文代 (43) <平成31年4月>
		動物毒性学 動物毒性学実習 レギュラトリー科学※ 医薬品・食品安全性評価 演習
兼担	准教授	伊藤 良樹 (39) <令和2年4月>
		臨床動物看護学各論Ⅱ※ 病院動物看護実習
兼担	准教授	神田 鉄平 (37) <令和2年4月>
		病院動物看護実習 チーム獣医療学※
兼担	准教授	依田 成玄 (45) <平成32年4月>
		専門英語ⅡB
兼担	准教授	森 博史 (63) <平成30年4月>
		スポーツとフィールド科学(エコツーリズムのための野外スポーツ) スポーツとフィールド科学(スキー)
兼担	講師	竹谷 浩介 (39) <平成30年4月>
		生命科学実習
兼担	講師	早川 晃司 (34) <平成31年4月>
		動物薬理学実習 動物毒性学実習 遺伝子工学
兼担	講師	カーティス テイモシー ブラッド フォード Curtis, Timothy Bradford (34) <平成30年4月>
		発信英語ⅠA
		発信英語ⅠB
		発信英語ⅡA
		発信英語ⅡB
		発信英語ⅢA
		発信英語ⅢB
		発信英語ⅣA
		発信英語ⅣB
		実用英語(アカデミック ライティング)
		実用英語(プレゼンテー ション)
		海外語学研修A
		海外語学研修B
		海外語学研修C
海外語学研修D		

専任・兼担・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月>
		担当授業科目名
兼担	准教授	齋藤(春末)文代 (44) <平成31年4月>
		動物毒性学 動物毒性学実習 レギュラトリー科学※ 医薬品・食品安全性評価 演習
兼担	准教授	伊藤 良樹 (40) <平成30年4月>
		臨床動物看護学各論Ⅱ※ 病院動物看護実習
兼担	准教授	神田 鉄平 (38) <平成30年4月>
		病院動物看護実習 チーム獣医療学※
兼担	准教授	森 博史 (64) <平成30年4月>
		スポーツとフィールド科学(エコツーリズムのための野外スポーツ) スポーツとフィールド科学(スキー)
兼担	講師	竹谷 浩介 (40) <平成30年4月>
		生命科学実習 情報リテラシー
兼担	講師	早川 晃司 (35) <平成31年4月>
		動物薬理学実習 動物毒性学実習 遺伝子工学
兼担	講師	カーティス テイモシー ブラッド フォード Curtis, Timothy Bradford (35) <平成30年4月>
		発信英語ⅠA
		発信英語ⅠB
		発信英語ⅡA
		発信英語ⅡB
		発信英語ⅢA
		発信英語ⅢB
		発信英語ⅣA
		発信英語ⅣB
		実用英語(アカデミック ライティング)
		実用英語(プレゼンテー ション)
		海外語学研修A
		海外語学研修B
		海外語学研修C
海外語学研修D		

専任・兼担・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月>
		担当授業科目名
兼担	准教授	齋藤(春末)文代 (45) <平成31年4月>
		動物毒性学 動物毒性学実習 レギュラトリー科学※ 医薬品・食品安全性評価 演習
兼担	准教授	伊藤 良樹 (41) <平成30年4月>
		臨床動物看護学各論Ⅱ※ 病院動物看護実習
兼担	准教授	神田 鉄平 (39) <平成30年4月>
		病院動物看護実習 チーム獣医療学※
兼担	准教授	森 博史 (65) <平成30年4月>
		スポーツとフィールド科学(エコツーリズムのための野外スポーツ) スポーツとフィールド科学(スキー)
兼担	講師	竹谷 浩介 (41) <平成30年4月>
		生命科学実習
兼担	講師	早川 晃司 (36) <令和元年6月>
		動物薬理学実習 動物毒性学実習 遺伝子工学
兼担	講師	カーティス テイモシー ブラッド フォード Curtis, Timothy Bradford (36) <平成30年4月>
		発信英語ⅠA
		発信英語ⅠB
		発信英語ⅡA
		発信英語ⅡB
		発信英語ⅢA
		発信英語ⅢB
		発信英語ⅣA
		発信英語ⅣB
		実用英語(アカデミック ライティング)
		実用英語(プレゼンテー ション)
		海外語学研修A
		海外語学研修B
		海外語学研修C
海外語学研修D		

専任・兼担・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月>
		担当授業科目名
兼担	講師	中嶋 幸生 (36) <令和2年4月>
		専門英語ⅡA
兼担	助教	五十嵐 瞳 (34) <平成30年4月>
		生命科学実習 動物形態機能学実習
兼担	助教	千葉 秀一 (39) <平成30年4月>
		生命科学実習 獣医病態モデル学※
兼担	助教	田中 良法 (33) <平成31年4月>
		生命科学実習
兼担	助教	向田 昌司 (33) <平成30年4月>
		生命科学実習 動物薬理学実習 動物毒性学実習 専門英語ⅠA
兼担	助教	林 慶 (30) <平成30年4月>
		生命科学実習 動物形態機能学実習 動物微生物学実習
兼担	助教	中村 翔 (29) <平成30年4月>
		生命科学実習 産業動物看護学実習
兼担	助教	太田 奈保美 (33) <平成31年4月>
		生命科学実習 専門英語ⅡA
兼担	助教	藤原 信行 (29) <平成31年4月>
		動物薬理学実習 動物毒性学実習
兼担	助教	梶川 修平 (30) <平成31年4月>
		動物薬理学実習 動物実験学※
兼担	助教	三河 翔馬 (27) <令和2年4月>
		動物臨床検査学実習Ⅰ

専任・兼担・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月>
		担当授業科目名
兼担	講師	中嶋 幸生 (37) <平成31年4月>
		専門英語ⅡA
兼担	助教	五十嵐 瞳 (35) <平成30年4月>
		生命科学実習 動物形態機能学実習
兼担	助教	千葉 秀一 (40) <平成30年4月>
		生命科学実習 情報リテラシー 獣医病態モデル学※
兼担	助教	田中 良法 (34) <平成31年4月>
		生命科学実習
兼担	助教	向田 昌司 (34) <平成30年4月>
		生命科学実習 情報リテラシー 動物薬理学実習 動物毒性学実習 専門英語ⅠA
兼担	助教	林 慶 (31) <平成30年4月>
		生命科学実習 情報リテラシー 動物形態機能学実習 動物微生物学実習
兼担	助教	中村 翔 (30) <平成30年4月>
		生命科学実習 情報リテラシー 産業動物看護学実習
兼担	助教	太田 奈保美 (34) <平成31年4月>
		生命科学実習 専門英語ⅡA
兼担	助教	藤原 信行 (30) <平成31年4月>
		動物薬理学実習 動物毒性学実習
兼担	助教	梶川 修平 (31) <平成31年4月>
		動物薬理学実習 動物実験学※
兼担	助教	三河 翔馬 (28) <平成31年4月>
		動物臨床検査学実習Ⅰ

専任・兼担・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月>
		担当授業科目名
兼担	講師	中嶋 幸生 (38) <平成31年4月>
		専門英語ⅡA
兼担	助教	五十嵐 瞳 (36) <平成30年4月>
		生命科学実習 動物形態機能学実習
兼担	助教	千葉 秀一 (41) <平成30年4月>
		生命科学実習 獣医病態モデル学※
兼担	助教	田中 良法 (35) <平成31年4月>
		生命科学実習
兼担	助教	向田 昌司 (35) <平成30年4月>
		生命科学実習 動物薬理学実習 動物毒性学実習 専門英語ⅠA
兼担	助教	林 慶 (32) <平成30年4月>
		生命科学実習 動物微生物学実習
兼担	助教	中村 翔 (31) <平成30年4月>
		生命科学実習 産業動物看護学実習 生殖工学 生殖工学実習
兼担	助教	太田 奈保美 (35) <平成31年4月>
		生命科学実習 専門英語ⅡA
兼担	助教	藤原 信行 (31) <平成31年4月>
		動物薬理学実習 動物毒性学実習
兼担	助教	梶川 修平 (32) <平成31年4月>
		動物薬理学実習 動物実験学※
兼担	助教	三河 翔馬 (29) <平成31年4月>
		動物臨床検査学実習Ⅰ

専任・ 兼任・ 兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月>
		担当授業科目名
兼任	助教	村上 康平 (32) <平成31年4月> 外科動物看護技術学実習
兼任	助教	藤井 ひかる (31) <平成31年4月> 動物微生物学実習
兼任	助教	糸井 崇将 (34) <令和2年4月> 病院動物看護実習
兼任	助教	久楽 賢治 (37) <令和2年4月> 病院動物看護実習
兼任	助教	三井 一鬼 (44) <令和2年4月> エキゾチックアニマル学※ 専門英語 I B
兼任	助教	小野 哲嗣 (35) <平成31年4月> 産業動物看護学実習
兼任	助教	望月 庸平 (36) <令和3年4月> チーム獣医療学※
兼任	助教	小林 正人 (30) <令和2年4月> 専門英語 I B

専任・ 兼任・ 兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月>
		担当授業科目名
兼任	助教	村上 康平 (33) <平成31年4月> 外科動物看護技術学実習
兼任	助教	藤井 ひかる (32) <平成31年4月> 動物微生物学実習
兼任	助教	糸井 崇将 (35) <令和2年4月> 病院動物看護実習
兼任	助教	久楽 賢治 (38) <平成30年4月> 情報リテラシー 病院動物看護実習
兼任	助教	三井 一鬼 (45) <令和2年4月> エキゾチックアニマル学※ 専門英語 I B
兼任	助教	小野 哲嗣 (36) <平成30年4月> 産業動物看護学実習
兼任	助教	望月 庸平 (37) <平成30年4月> チーム獣医療学※
兼任	助教	小林 正人 (31) <令和2年4月> 専門英語 I B
兼任	教授	深瀬 徹 (60) (高) <平成30年11月> 生命科学実習
兼任	講師	深瀬 徹 (60) <平成30年4月> 動物関連キャリア概論※
兼任	教授	斉藤 真也 (52) <平成30年9月> 動物関連キャリア概論※ 生物物理学 トランスレーショナル・ リサーチ 専門英語 I B
兼任	講師	斉藤 真也 (52) <平成30年4月> 動物関連キャリア概論※
兼任	教授	横山 博 (54) <平成31年4月> 動物関連キャリア概論※ 専門英語 II B

専任・ 兼任・ 兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月>
		担当授業科目名
兼任	助教	村上 康平 (34) <平成31年4月> 外科動物看護技術学実習
兼任	助教	藤井 ひかる (33) <平成31年4月> 動物微生物学実習
兼任	助教	糸井 崇将 (36) <令和2年4月> 病院動物看護実習
兼任	助教	久楽 賢治 (39) <平成30年4月> 病院動物看護実習
兼任	助教	三井 一鬼 (46) <令和2年4月> エキゾチックアニマル学※ 専門英語 I B
兼任	助教	小野 哲嗣 (37) <平成30年4月> 産業動物看護学実習
兼任	助教	望月 庸平 (38) <平成30年4月> チーム獣医療学※
兼任	助教	小林 正人 (31) <令和2年4月> 専門英語 I B
兼任	教授	深瀬 徹 (61) (高) <平成30年11月> 生命科学実習
兼任	教授	斉藤 真也 (53) <平成30年9月> 動物関連キャリア概論※ 生物物理学 トランスレーショナル・ リサーチ 専門英語 I B
兼任	教授	横山 博 (55) <平成31年4月> 動物関連キャリア概論※ 専門英語 II B

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月 >
		担当授業科目名
兼任	講師	川重 結子 (56) <平成31年4月> 臨床動物栄養学※ 動物歯科衛生学演習
兼任	講師	山本 健治 (68) <令和3年4月> 動物理学療法学演習
兼任	講師	藤高 伸子 (64) <平成30年4月> 総合英語ⅠA 総合英語ⅠB 総合英語ⅡA 総合英語ⅡB 総合英語ⅢA 総合英語ⅢB 総合英語ⅣA 総合英語ⅣB 応用英語ⅠA 応用英語ⅠB 応用英語ⅡA 応用英語ⅡB

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月 >
		担当授業科目名
兼任	教授	澤見 英男 (68) <平成30年4月> 現代人の科学D
兼任	准教授	高橋 秀和 (45) <平成31年4月> 情報リテラシー 動物公衆衛生学 専門英語ⅡA
兼任	講師	前田 憲孝 (42) <平成30年4月> 生命科学実習
兼任	講師	松田 彬 (36) <平成30年4月> 生命科学実習
兼任	講師	逸見(小原)千寿香 (41) <平成31年4月> 動物関連キャリア概論※ 生命科学実習 動物病理学
兼任	講師	井上 陽一 (45) <令和2年4月> 動物関連キャリア概論※
兼任	講師	川重 結子 (57) <平成31年4月> 臨床動物栄養学※ 動物歯科衛生学演習
兼任	講師	山本 健治 (69) <令和3年4月> 動物理学療法学演習
兼任	講師	藤高 伸子 (65) <平成30年4月> 総合英語ⅠA 総合英語ⅠB 総合英語ⅡA 総合英語ⅡB 総合英語ⅢA 総合英語ⅢB 総合英語ⅣA 総合英語ⅣB 応用英語ⅠA 応用英語ⅠB 応用英語ⅡA 応用英語ⅡB

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月 >
		担当授業科目名
兼任	教授	澤見 英男 (69) <平成30年4月> 現代人の科学D
兼任	准教授	高橋 秀和 (46) <平成31年4月> 情報リテラシー 動物公衆衛生学 専門英語ⅡA
兼任	講師	逸見(小原)千寿香 (42) <平成31年4月> 動物関連キャリア概論※ 生命科学実習 動物病理学
兼任	講師	井上 陽一 (46) <令和2年4月> 動物関連キャリア概論※
兼任	講師	川重 結子 (58) <平成31年4月> 臨床動物栄養学※ 動物歯科衛生学演習
兼任	講師	山本 健治 (70) <令和3年4月> 動物理学療法学演習
兼任	講師	藤高 伸子 (66) <平成30年4月> 総合英語ⅠA 総合英語ⅠB 総合英語ⅡA 総合英語ⅡB 総合英語ⅢA 総合英語ⅢB 総合英語ⅣA 総合英語ⅣB 応用英語ⅠA 応用英語ⅠB 応用英語ⅡA 応用英語ⅡB

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月>
		担当授業科目名
兼任	講師	高橋 伸二 (61) <平成30年4月>
		総合英語 I A 総合英語 I B 総合英語 II A 総合英語 II B 総合英語 III A 総合英語 III B 総合英語 IV A 総合英語 IV B 応用英語 I A 応用英語 I B 応用英語 II A 応用英語 II B
兼任	講師	松本 喜一郎 (65) <平成30年4月>
		総合英語 I A 総合英語 I B 総合英語 II A 総合英語 II B 総合英語 III A 総合英語 III B 総合英語 IV A 総合英語 IV B 応用英語 I A 応用英語 I B 応用英語 II A 応用英語 II B
兼任	講師	リヴェラ 陽子 (34) <平成30年4月>
		総合英語 I A 総合英語 I B 総合英語 II A 総合英語 II B 総合英語 III A 総合英語 III B 総合英語 IV A 総合英語 IV B
兼任	講師	藤倉 晶子 (57) <平成30年4月>
		総合英語 I A 総合英語 I B 総合英語 II A 総合英語 II B 総合英語 III A 総合英語 III B 総合英語 IV A 総合英語 IV B 日本語理解 日本語表現

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月>
		担当授業科目名
兼任	講師	高橋 伸二 (62) <平成30年4月>
		総合英語 I A 総合英語 I B 総合英語 II A 総合英語 II B 総合英語 III A 総合英語 III B 総合英語 IV A 総合英語 IV B 応用英語 I A 応用英語 I B 応用英語 II A 応用英語 II B
兼任	講師	松本 喜一郎 (66) <平成30年4月>
		総合英語 I A 総合英語 I B 総合英語 II A 総合英語 II B 総合英語 III A 総合英語 III B 総合英語 IV A 総合英語 IV B 応用英語 I A 応用英語 I B 応用英語 II A 応用英語 II B
兼任	講師	リヴェラ 陽子 (35) <平成30年4月>
		総合英語 I A 総合英語 I B 総合英語 II A 総合英語 II B 総合英語 III A 総合英語 III B 総合英語 IV A 総合英語 IV B
兼任	講師	藤倉 晶子 (58) <平成30年4月>
		総合英語 I A 総合英語 I B 総合英語 II A 総合英語 II B 総合英語 III A 総合英語 III B 総合英語 IV A 総合英語 IV B 日本語理解 日本語表現

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月>
		担当授業科目名
兼任	講師	高橋 伸二 (63) <平成30年4月>
		総合英語 I A 総合英語 I B 総合英語 II A 総合英語 II B 総合英語 III A 総合英語 III B 総合英語 IV A 総合英語 IV B 応用英語 I A 応用英語 I B 応用英語 II A 応用英語 II B
兼任	講師	
兼任	講師	リヴェラ 陽子 (36) <平成30年4月>
		総合英語 I A 総合英語 I B 総合英語 II A 総合英語 II B 総合英語 III A 総合英語 III B 総合英語 IV A 総合英語 IV B
兼任	講師	藤倉 晶子 (59) <平成30年4月>
		総合英語 I A 総合英語 I B 総合英語 II A 総合英語 II B 総合英語 III A 総合英語 III B 総合英語 IV A 総合英語 IV B 日本語 日本語理解 日本語表現

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月>
		担当授業科目名
兼任	講師	菅 開 (60) <平成30年4月>
		総合英語ⅠA 総合英語ⅠB 総合英語ⅡA 総合英語ⅡB 総合英語ⅢA 総合英語ⅢB 総合英語ⅣA 総合英語ⅣB
兼任	講師	松原 加純 (32) <平成30年4月>
		総合英語ⅠA 総合英語ⅠB 総合英語ⅡA 総合英語ⅡB 総合英語ⅢA 総合英語ⅢB 総合英語ⅣA 総合英語ⅣB
兼任	講師	リグェラ マイケル ライブ Michael Rivera (34) <平成30年4月>
		発信英語ⅠA 発信英語ⅠB 発信英語ⅡA 発信英語ⅡB 発信英語ⅢA 発信英語ⅢB 発信英語ⅣA 発信英語ⅣB
兼任	講師	門田 シルバルー (51) <平成30年4月>
		発信英語ⅠA 発信英語ⅠB 発信英語ⅡA 発信英語ⅡB 発信英語ⅢA 発信英語ⅢB 発信英語ⅣA 発信英語ⅣB
兼任	講師	ガリー・ハート Gary Craig Baird (52) <平成30年4月>
		発信英語ⅠA 発信英語ⅠB 発信英語ⅡA 発信英語ⅡB 発信英語ⅢA 発信英語ⅢB 発信英語ⅣA 発信英語ⅣB

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月>
		担当授業科目名
兼任	講師	菅 開 (61) <平成30年4月>
		総合英語ⅠA 総合英語ⅠB 総合英語ⅡA 総合英語ⅡB 総合英語ⅢA 総合英語ⅢB 総合英語ⅣA 総合英語ⅣB
兼任	講師	松原 加純 (33) <平成30年4月>
		総合英語ⅠA 総合英語ⅠB 総合英語ⅡA 総合英語ⅡB 総合英語ⅢA 総合英語ⅢB 総合英語ⅣA 総合英語ⅣB
兼任	講師	リグェラ マイケル ライブ Michael Rivera (35) <平成30年4月>
		発信英語ⅠA 発信英語ⅠB 発信英語ⅡA 発信英語ⅡB 発信英語ⅢA 発信英語ⅢB 発信英語ⅣA 発信英語ⅣB
兼任	講師	門田 シルバルー (52) <平成30年4月>
		発信英語ⅠA 発信英語ⅠB 発信英語ⅡA 発信英語ⅡB 発信英語ⅢA 発信英語ⅢB 発信英語ⅣA 発信英語ⅣB
兼任	講師	ガリー・ハート Gary Craig Baird (53) <平成30年4月>
		発信英語ⅠA 発信英語ⅠB 発信英語ⅡA 発信英語ⅡB 発信英語ⅢA 発信英語ⅢB 発信英語ⅣA 発信英語ⅣB

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月>
		担当授業科目名
兼任	講師	菅 開 (62) <平成30年4月>
		総合英語ⅠA 総合英語ⅠB 総合英語ⅡA 総合英語ⅡB 総合英語ⅢA 総合英語ⅢB 総合英語ⅣA 総合英語ⅣB
兼任	講師	松原 加純 (34) <平成30年4月>
		総合英語ⅠA 総合英語ⅠB 総合英語ⅡA 総合英語ⅡB 総合英語ⅢA 総合英語ⅢB 総合英語ⅣA 総合英語ⅣB
兼任	講師	リグェラ マイケル ライブ Michael Rivera (36) <平成30年4月>
		発信英語ⅠA 発信英語ⅠB 発信英語ⅡA 発信英語ⅡB
兼任	講師	門田 シルバルー (53) <平成30年4月>
		発信英語ⅠA 発信英語ⅠB 発信英語ⅡA 発信英語ⅡB 発信英語ⅢA 発信英語ⅢB 発信英語ⅣA 発信英語ⅣB
兼任	講師	ガリー・ハート Gary Craig Baird (54) <平成30年4月>
		発信英語ⅠA 発信英語ⅠB 発信英語ⅡA 発信英語ⅡB

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞
		担当授業科目名
兼任	講師	鳥生 クリスティーン (44) ＜平成30年4月＞
		発信英語ⅠA 発信英語ⅠB 発信英語ⅡA 発信英語ⅡB 発信英語ⅢA 発信英語ⅢB 発信英語ⅣA 発信英語ⅣB
兼任	講師	渡辺 メリー ジェーン ガルシア (43) ＜平成30年4月＞
		発信英語ⅠA 発信英語ⅠB 発信英語ⅡA 発信英語ⅡB 発信英語ⅢA 発信英語ⅢB 発信英語ⅣA 発信英語ⅣB
兼任	講師	アンドリュー デビッド ストレンジ Andrew David Strange (35) ＜平成30年4月＞
		発信英語ⅠA 発信英語ⅠB 発信英語ⅡA 発信英語ⅡB 発信英語ⅢA 発信英語ⅢB 発信英語ⅣA 発信英語ⅣB
兼任	講師	川口 ローラ (46) ＜平成30年4月＞
		発信英語ⅠA 発信英語ⅠB 発信英語ⅡA 発信英語ⅡB 発信英語ⅢA 発信英語ⅢB 発信英語ⅣA 発信英語ⅣB
兼任	講師	菅 未帆 (49) ＜平成30年4月＞
		中国語ⅠA 中国語ⅠB 中国語ⅡA 中国語ⅡB

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞
		担当授業科目名
兼任	講師	鳥生 クリスティーン (45) ＜平成30年4月＞
		発信英語ⅠA 発信英語ⅠB 発信英語ⅡA 発信英語ⅡB 発信英語ⅢA 発信英語ⅢB 発信英語ⅣA 発信英語ⅣB
兼任	講師	渡辺 メリー ジェーン ガルシア (44) ＜平成30年4月＞
		発信英語ⅠA 発信英語ⅠB 発信英語ⅡA 発信英語ⅡB 発信英語ⅢA 発信英語ⅢB 発信英語ⅣA 発信英語ⅣB
兼任	講師	アンドリュー デビッド ストレンジ Andrew David Strange (36) ＜平成30年4月＞
		発信英語ⅠA 発信英語ⅠB 発信英語ⅡA 発信英語ⅡB 発信英語ⅢA 発信英語ⅢB 発信英語ⅣA 発信英語ⅣB
兼任	講師	
兼任	講師	菅 未帆 (50) ＜平成30年4月＞
		中国語ⅠA 中国語ⅠB 中国語ⅡA 中国語ⅡB

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞
		担当授業科目名
兼任	講師	鳥生 クリスティーン (46) ＜平成30年4月＞
		発信英語ⅠA 発信英語ⅠB 発信英語ⅡA 発信英語ⅡB
兼任	講師	渡辺 メリー ジェーン ガルシア (45) ＜平成30年4月＞
		発信英語ⅠA 発信英語ⅠB 発信英語ⅡA 発信英語ⅡB 発信英語ⅢA 発信英語ⅢB 発信英語ⅣA 発信英語ⅣB
兼任	講師	
兼任	講師	菅 未帆 (51) ＜平成30年4月＞
		中国語ⅠA 中国語ⅠB 中国語ⅡA 中国語ⅡB

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞
		担当授業科目名
兼任	講師	宮田(宮崎) さつき (37) ＜平成30年4月＞
		中国語ⅠA 中国語ⅠB 中国語ⅡA 中国語ⅡB
兼任	講師	張 永慶 (48) ＜平成30年4月＞
		中国語ⅠA 中国語ⅠB 中国語ⅡA 中国語ⅡB
兼任	講師	崔 昌玉 (42) ＜平成30年4月＞
		ハングルⅠA ハングルⅠB ハングルⅡA ハングルⅡB
兼任	講師	崔 允楨 (44) ＜平成30年4月＞
		ハングルⅠA ハングルⅠB ハングルⅡA ハングルⅡB
兼任	講師	矢野 葉子 (41) ＜平成30年4月＞
		心理学A 心理学B
兼任	講師	大西 好幸 (62) ＜平成30年4月＞
		文学A 文学B
兼任	講師	白石 成二 (65) ＜平成30年4月＞
		日本史A 日本史B
兼任	講師	松澤 仁志 (60) ＜平成30年4月＞
		外国史A 外国史B

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞
		担当授業科目名
兼任	講師	宮田(宮崎) さつき (38) ＜平成30年4月＞
		中国語ⅠA 中国語ⅠB 中国語ⅡA 中国語ⅡB
兼任	講師	張 永慶 (49) ＜平成30年4月＞
		中国語ⅠA 中国語ⅠB 中国語ⅡA 中国語ⅡB
兼任	講師	崔 昌玉 (43) ＜平成30年4月＞
		ハングルⅠA ハングルⅠB ハングルⅡA ハングルⅡB
兼任	講師	崔 允楨 (45) ＜平成30年4月＞
		ハングルⅠA ハングルⅠB ハングルⅡA ハングルⅡB
兼任	講師	矢野 葉子 (42) ＜平成30年4月＞
		心理学A 心理学B
兼任	講師	大西 好幸 (63) ＜平成30年4月＞
		文学A 文学B
兼任	講師	白石 成二 (66) ＜平成30年4月＞
		日本史A 日本史B
兼任	講師	松澤 仁志 (61) ＜平成30年4月＞
		外国史A 外国史B

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞
		担当授業科目名
兼任	講師	宮田(宮崎) さつき (39) ＜平成30年4月＞
		中国語ⅠA 中国語ⅠB 中国語ⅡA 中国語ⅡB
兼任	講師	張 永慶 (50) ＜平成30年4月＞
		中国語ⅠA 中国語ⅠB 中国語ⅡA 中国語ⅡB
兼任	講師	崔 昌玉 (44) ＜平成30年4月＞
		ハングルⅠA ハングルⅠB ハングルⅡA ハングルⅡB
兼任	講師	崔 允楨 (46) ＜平成30年4月＞
		ハングルⅠA ハングルⅠB ハングルⅡA ハングルⅡB
兼任	講師	矢野 葉子 (43) ＜平成30年4月＞
		心理学A 心理学B
兼任	講師	大西 好幸 (64) ＜平成30年4月＞
		文学A 文学B
兼任	講師	白石 成二 (67) ＜平成30年4月＞
		日本史A 日本史B
兼任	講師	松澤 仁志 (62) ＜平成30年4月＞
		外国史A 外国史B

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月>
		担当授業科目名
兼任	講師	山中 高光 (59) <平成30年4月>
		経済学A 経済学B
兼任	講師	森 一治 (62) <平成30年4月>
		スポーツとフィールド科学(エコツーリズムのための野外スポーツ)
兼任	講師	高野 洋志 (67) <平成30年4月>
		スポーツとフィールド科学(エコツーリズムのための野外スポーツ)
兼任	講師	吉村 直樹 (70) <平成30年4月>
		スポーツとフィールド科学(スキー)
兼任	講師	黒田 隆之 (61) <平成30年4月>
		スポーツとフィールド科学(スキー)
兼任	講師	杉本 博 (68) <平成30年4月>
		スポーツとフィールド科学(スキー)
兼任	講師	明比 孝善 (41) <平成30年4月>
		スポーツとフィールド科学(テニス)
兼任	講師	澤見 英男 (67) <平成30年4月>
		現代人の科学D

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月>
		担当授業科目名
兼任	講師	山中 高光 (60) <平成30年4月>
		経済学A 経済学B
兼任	講師	森 一治 (63) <平成30年4月>
		スポーツとフィールド科学(エコツーリズムのための野外スポーツ)
兼任	講師	高野 洋志 (68) <平成30年4月>
		スポーツとフィールド科学(エコツーリズムのための野外スポーツ)
兼任	講師	吉村 直樹 (71) <平成30年4月>
		スポーツとフィールド科学(スキー)
兼任	講師	黒田 隆之 (62) <平成30年4月>
		スポーツとフィールド科学(スキー)
兼任	講師	杉本 博 (69) <平成30年4月>
		スポーツとフィールド科学(スキー)
兼任	講師	明比 孝善 (42) <平成30年4月>
		スポーツとフィールド科学(テニス)
兼任	講師	三好 紀彰 (40) <平成30年4月>
		栄養学
兼任	講師	平山 紀夫 (69) <平成30年4月>
		動物関連キャリア概論※
兼任	講師	北村 真一 (44) <平成30年4月>
		動物関連キャリア概論※

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月>
		担当授業科目名
兼任	講師	山中 高光 (61) <平成30年4月>
		経済学A 経済学B
兼任	講師	森 一治 (64) <平成30年4月>
		スポーツとフィールド科学(エコツーリズムのための野外スポーツ)
兼任	講師	高野 洋志 (69) <平成30年4月>
		スポーツとフィールド科学(エコツーリズムのための野外スポーツ)
兼任	講師	吉村 直樹 (72) <平成30年4月>
		スポーツとフィールド科学(スキー)
兼任	講師	黒田 隆之 (63) <平成30年4月>
		スポーツとフィールド科学(スキー)
兼任	講師	杉本 博 (70) <平成30年4月>
		スポーツとフィールド科学(スキー)
兼任	講師	明比 孝善 (43) <平成30年4月>
		スポーツとフィールド科学(テニス)
兼任	講師	佐々木 伸雄 (71) <令和2年4月>
		動物看護技術学
兼任	講師	国枝 哲夫 (64) <令和元年4月>
		遺伝育種学

(1) ②担当教員表に関する変更内容

【平成30年度】

・磯部知弘教授就任辞退により、「産業動物疾病予防管理学」「人工授精学実習」は永幡肇教授に変更。平成30年11月AC教員審査済み。「産業動物看護学実習」「人工授精学」「家畜疾病学」「家畜繁殖学」「産業動物特論」は久枝啓一講師に変更。平成31年1月AC教員審査済み。「遺伝育種学」は獣医学科専任の教授予定者が令和元年7月AC教員審査を受審する予定である。

・古川敏紀教授就任辞退により、「動物看護技術学実習Ⅰ」「動物臨床検査学Ⅱ」「臨床動物看護学総論」「臨床動物看護学演習」「高齢動物看護学」「獣医看護実務実習Ⅰ」「獣医看護実務実習Ⅱ」「プレゼミナールⅠ」「プレゼミナールⅡ」「プレゼミナールⅢ」「プレゼミナールⅣ」「動物のヒトの健康と福祉特論」「卒業研究Ⅰ」「卒業研究Ⅱ」は内田英二教授に変更。平成31年1月AC教員審査済み。「動物看護技術学実習Ⅱ」「病院動物看護実習」は佐伯香織講師に変更。平成31年1月AC教員審査済み。「動物看護技術学」は専任准教授の担当科目追加で令和元年7月AC教員審査を受審する予定であり、令和元年度のみ兼任教員（佐々木伸雄）を配置する。「外科動物看護技術学実習」は宮部真裕助教に変更、平成31年1月AC教員審査済みである。

・佐々木伸雄教授就任辞退により、「動物看護技術学実習Ⅲ」「外科動物看護技術学実習」「救急・終末医療看護学」「獣医看護実務実習Ⅰ」「獣医看護実務実習Ⅱ」「獣医看護実務実習Ⅲ」は佐伯香織講師に変更。平成31年1月AC教員審査済み。「病院動物看護実習」は内田英二教授に変更。平成31年1月AC教員審査済み。「プレゼミナールⅠ」「プレゼミナールⅡ」「プレゼミナールⅢ」「プレゼミナールⅣ」「卒業研究Ⅰ」「卒業研究Ⅱ」は久枝啓一講師に変更。平成31年1月AC教員審査済み。「VPP特論」は開講クラスを調整し共同開講を変更し、小野文子准教授の単独担当とする。「動物臨床検査学実習Ⅱ」は宮部真裕助教に変更、平成31年1月AC教員審査済み。「外科動物看護技術学」「臨床動物看護学各論Ⅲ」は専任准教授の担当科目追加で令和元年7月AC教員審査を受審する予定である。

・松山秀一准教授就任辞退により、「生産農学概論」「産業動物看護学」「産業動物看護学実習」「プレゼミナールⅠ」「プレゼミナールⅡ」「プレゼミナールⅢ」「プレゼミナールⅣ」「産業動物特論」「卒業研究Ⅰ」「卒業研究Ⅱ」は永幡肇教授に変更。平成30年11月AC教員審査済み。「生殖工学」「生殖工学実習」は中村翔兼助教に変更。なお「生殖工学」はオムニバスを廃止し、単独で担当する。「人工授精学実習」は久枝啓一講師に変更。平成31年1月AC教員審査済み。

・小沼守准教授の就任辞退により、「栄養学」「動物臨床検査学実習Ⅰ」は内田英二教授に変更。平成31年1月AC教員審査済み。「臨床動物看護学各論」「チーム獣医療学」「動物とヒトの健康と福祉特論」は佐伯香織講師に変更。平成31年1月AC教員審査済み。「プレゼミナールⅠ」「プレゼミナールⅡ」「プレゼミナールⅢ」「プレゼミナールⅣ」「卒業研究Ⅰ」「卒業研究Ⅱ」は専任の教授予定者を令和元年11月AC教員審査を受審する予定である。「動物看護技術学実習Ⅲ」「臨床動物看護学演習」「臨床動物看護技術学実習」「病院動物看護実習」「獣医看護実務実習Ⅰ」「獣医看護実務実習Ⅱ」は、宮部真裕助教に変更、平成31年1月AC教員審査済み。

・関口路子助教の就任辞退により、「実験動物学実習Ⅰ」「動物看護技術学実習Ⅰ」「動物看護技術学実習Ⅱ」「動物臨床検査学実習Ⅱ」「実験動物看護実習」「実験動物学実習Ⅱ」「生殖工学実習」「産業動物看護学実習」は野原正勝助教に変更する。平成30年7月教員審査済み。「臨床動物看護学演習」「臨床動物看護技術学実習」は佐伯香織講師に変更。平成31年1月AC教員審査済み。「生殖工学」は中村翔兼助教をオムニバスを廃止した上で兼任として配置する。

・菅又昌実兼担教授の就任辞退により、「動物関連キャリア概論」は井上陽一兼担講師に変更。「情報リテラシー」「動物公衆衛生学」は高橋秀和兼担教授に変更。なお「情報リテラシー」は1年③期に開講する科目であるため、平成30年度のみ千葉秀一兼担助教を科目責任者として、畑明寿兼担教授、竹谷浩介兼担講師、向田昌司兼担助教、林慶兼担助教、中村翔兼担助教、久楽賢治兼担助教の分担により授業を実施した。

・榊林陽一兼担教授の就任辞退により、「動物関連キャリア概論」「生物物理学」「トランスレーショナル・リサーチ」は、齊藤真也兼担教授に変更する。なお、平成30年度のみ齊藤真也兼任講師として配置した。

・前多敬一郎兼任教員（令和3年より兼担教授）の死去により「遺伝育種学」は獣医学科専任教員候補者を令和元年7月AC教員審査を受審する予定である。なお令和元年9月より開講する科目であるため、令和元年のみ、当該教員が兼任講師として担当する。

・門平睦代兼担教授の就任辞退により、「専門英語ⅡA」は高橋秀和兼担教授に変更する。

・獣医学教育病院における診療業務のため、星史雄兼担教授は平成31年4月から平成30年4月に就任年月日を変更。

・片山圭一兼担教授の就任辞退により、「動物関連キャリア概論」「生命科学実習」「動物病理学」は逸見（小原）千寿香兼担講師に変更する。「専門英語ⅠB」は齊藤真也兼担教授に変更する。

・北村真一兼担教授の就任辞退により、「動物関連キャリア概論」は横山博兼担教授に変更する。

・畑明寿兼担教授、竹谷浩介兼担講師、千葉秀一兼担助教、向田昌司兼担助教、林慶兼担助教、中村翔兼担助教、久楽賢治兼担助教の担当授業科目に「情報リテラシー」を追加。

・獣医学教育病院における診療業務のため、伊藤良樹兼担教授は令和2年4月から平成30年4月に就任年月日を変更。

・獣医学教育病院における診療業務のため、神田鉄平兼担教授は令和2年4月から平成30年4月に就任年月日を変更。

・我妻玲兼担教授の就任辞退により、「生命科学実習」は深瀬徹兼担教授に変更。「生物統計」は獣医学科の専任准教授の担当科目追加で令和元年7月AC教員審査を受審する予定である。審査の結果「可」となれば兼任教員として配置する。

・依田成玄兼担教授の就任辞退により、「専門英語ⅡB」は横山博兼担教授に変更する。

・獣医学教育病院における診療業務のため、中嶋幸生兼担講師は令和2年4月から平成31年4月に就任年月日を変更。

・獣医学教育病院における診療業務のため、三河翔馬兼担助教は令和2年4月から平成31年4月に就任年月日を変更。

・獣医学教育病院における診療業務のため、久楽賢治兼担助教は令和2年4月から平成30年4月に就任年月日を変更。

・獣医学教育病院における診療業務のため、小野哲嗣兼担助教は平成31年4月から平成30年4月に就任年月日を変更。

・獣医学教育病院における診療業務のため、望月庸平兼担助教は令和3年4月から平成30年4月に就任年月日を変更。

・深瀬徹は兼任講師として平成30年4月就任、兼担教授として平成30年11月より就任。

・齊藤真也は兼任講師として平成30年4月に就任、兼担教授として平成30年9月より就任。

・横山博は兼担教授として平成31年4月より就任することとなった。

・澤見英男は兼担教授として平成30年4月より採用となった。

・高橋秀和は兼担教授として平成31年4月より就任することとなった。

・前田憲孝兼担講師は「生命科学実習」を平成30年度担当するため、兼担講師として平成30年度のみ就任した。

・松田彬兼担講師は「生命科学実習」を平成30年度担当するため、兼担講師として平成30年度のみ就任した。

・逸見（小原）千寿香は兼任講師として平成31年4月より就任することとなった。

・井上陽一は兼任講師として令和2年4月より就任することとなった。

【令和元年度】

- ・寺田盛紀兼任教授は平成31年3月31日をもって任期満了のため退職となった。後任には八木力俊兼任講師が就任した。
- ・「情報リテラシー」は高橋秀和兼任准教授が担当するため、畑明寿兼任准教授、竹谷浩介兼任講師、千葉秀一兼任助教、向田昌司兼任助教、林慶兼任助教、中村翔兼任助教、久楽賢治兼任助教の担当から削除した。
- ・海外留学先からの帰国時期変更のため、早川晃司兼任講師の就任年月日宇を平成31年4月から令和元年6月に変更。
- ・「生命科学実習」は深瀬徹兼任教授、逸見（小原）千寿香兼任講師が担当するため、松田彬兼任講師、前田憲孝兼任講師の担当から削除した。
- ・「総合英語ⅠA」「総合英語ⅠB」「総合英語ⅡA」「総合英語ⅡB」「総合英語ⅢA」「総合英語ⅢB」「総合英語ⅣA」「総合英語ⅣB」「応用英語ⅠA」「応用英語ⅠB」「応用英語ⅡA」「応用英語ⅡB」を担当していた松本喜一郎兼任講師は任期満了のため退職した。「総合英語ⅠA」「総合英語ⅠB」「総合英語ⅡA」「総合英語ⅡB」「総合英語ⅢA」「総合英語ⅢB」「総合英語ⅣA」「総合英語ⅣB」を担当する後任には、菅紀子兼任講師が就任した。
- ・外国人留学生の日本語教育科目充実のために開設した「日本語」を、藤倉晶子兼任講師の担当授業科目に追加した。
- ・「発信英語ⅢA」「発信英語ⅢB」「発信英語ⅣA」「発信英語ⅣB」の履修者数に合わせて開講クラスを調整した。これにより、リヴェラマイケルライアン、ガリーバード、鳥生クリスティーンは担当から除外した。
- ・「発信英語ⅠA」「発信英語ⅠB」「発信英語ⅡA」「発信英語ⅡB」「発信英語ⅢA」「発信英語ⅢB」「発信英語ⅣA」「発信英語ⅣB」を担当していたアンドリューデイビットストレンジが退職し、後任としてクロッカーネイサンデビッド、大河内ジュリーが就任した。「発信英語ⅠA」「発信英語ⅠB」「発信英語ⅡA」「発信英語ⅡB」を担当する。
- ・三好紀彰兼任講師は平成31年3月31日をもって任期満了のため退職した。平成30年度に担当した「栄養学」は令和元年度より内田英二教授が担当する。
- ・平成30年度のみ「動物関連キャリア概論」を担当するため、北村真一兼任講師が就任していたが任期満了により退職した。「動物関連キャリア概論」は令和元年度より横山博兼任教授が担当する。
- ・「動物看護技術学」を令和元年度に担当するため佐々木伸雄兼任講師が就任した。

- (注)
- ・ 変更内容を箇条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
 - ・ **認可で設置された学部等の専任教員を変更する場合は**、当該専任教員が授業を開始する前に必ず「専任教員採用等設置計画変更書」を提出し、大学設置・学校法人審議会による教員資格審査（AC教員審査）を受けてください。**AC教員審査を受けずに専任教員として授業等を担当することは出来ません。**
 - ・ 「専任教員採用等変更書（AC）」を提出し「可」の教員判定を受けている場合は「〇年〇月教員審査済」と記入してください。
- なお、設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は、「教員審査省略」と記入してください。
- ・ 不要な年度（平成29年度開設であれば平成28年度）の表は適宜削除してください。

(2) 専任教員数等

(2) - ① 設置基準上の必要専任教員数

完成年度時における 設置基準上の必要専 任教員数	うち、完成年度時に おける設置基準上の 必要教授数
8 名	4 名

(注) ・ 大学設置基準第十三条別表第一、短期大学設置基準第二十二條別表第一イにより算出される専任教員数を記入してください。

(2) - ② 専任教員数【大学】

設置時の計画					現在（報告時）の状況				
教授	准教授	講師	助教	計 (A)	教授	准教授	講師	助教	計 (B)
4	5	2	1	12	3	3	4	2	12
(1)	(3)	(2)	(0)	(6)					
現在（報告時）の完成年度時の状況					現在（報告時）の完成年度時の計画				
教授	准教授	講師	助教	計 (C)	教授	准教授	講師	助教	計 (D)
3	3	4	2	12	4	3	4	1	13
[Δ1]	[Δ2]	[2]	[1]	[0]	[0]	[Δ2]	[2]	[1]	[1]

(注) ・ 「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、() 内に開設時の状況を記入してください。
 ・ 「現在（報告時）の状況」には、報告年度の5月1日の教員数（実人数）を記入してください。
 ・ 「現在（報告時）の完成年度時の状況」には、「現在（報告時）の状況」に記入した数字に、教員審査を受審済みであり、完成年度までに就任する教員数を加えた数を記入するとともに、[] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：Δ1）
 ・ 「現在（報告時）の完成年度時の計画」には、予定されている完成年度時の人数を記入するとともに、[] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：Δ1）

(2) - ③ 年齢構成

年齢構成		
定年規定の定める 定年年齢（歳）	報告時（上記 (B)）の教員の うち、定年を延長 して採用している 教員数	完成年度時（上記 (C)）の教員 うち、定年を延長し て採用する教員数
65 歳	2 名	2 名

(注) ・ 「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢（特例等による定年年齢ではありません）、および、報告年度の5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている教員数および完成年度時に定年を超えて専任教員として採用する教員数を記入してください。
 ・ なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二重書きで記入し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。
 [] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：Δ1）

(2) - ④ 設置時の計画に対する教員充足率

$$\frac{\text{現在（報告時）の完成年度時の状況(C)}}{\text{設置時の計画(A)}} = \frac{11}{12} = \boxed{91.66} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) - ⑤ 現在（報告時）の状況における定年を延長している教員構成率

$$\frac{\text{報告時の教員のうち、定年を延長して採用している教員数}}{\text{現在（報告時）の状況(B)}} = \frac{2}{12} = \boxed{16.66} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) 専任教員辞任等の理由

(3) -① 専任教員の就任辞退(未就任)の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	就任辞退(未就任)の理由
1	教授	磯部 知弘	H29.12	選択	遺伝育種学	①	H29.12 一身上の都合により就任辞退(30)
				選択	産業動物疾病予防管理学	①	
				選択	産業動物看護学実習	①	
				選択	人工授精学	①	
				選択	人工授精学実習	①	
				選択	家畜疾病学	①	
				選択	家畜繁殖学	①	
				選択	産業動物特論	①	
2	准教授	松山 秀一	H29.11	選択	生産農学概論	①	H29.11 一身上の都合により就任辞退(30)
				選択	産業動物看護学	①	
				選択	生殖工学※	②	
				選択	生殖工学実習	②	
				選択	産業動物看護学実習	①	
				選択	人工授精学実習	①	
				必修	プレゼミナルⅠ	①	
				必修	プレゼミナルⅡ	①	
				必修	プレゼミナルⅢ	①	
				必修	プレゼミナルⅣ	①	
				選択	産業動物特論	①	
				必修	卒業研究Ⅰ	①	
必修	卒業研究Ⅱ	①					
3	助教	関口 路子	H30.4	選択	実験動物学実習Ⅰ	①	H30.4 一身上の都合により就任辞退(30)
				必修	動物看護技術学実習Ⅰ	①	
				必修	動物看護技術学実習Ⅱ	①	
				必修	動物臨床検査学実習Ⅱ	①	
				選択	臨床動物看護学演習	①	
				選択	臨床動物看護技術学実習	①	
				選択	実験動物看護実習	①	
				選択	実験動物学実習Ⅱ	①	
				選択	生殖工学※	②	
				選択	生殖工学実習	①	
				選択	産業動物看護学実習	①	
4	教授	古川 敏紀	H30.9	必修	動物看護技術学	②	H30.9 一身上の都合により就任辞退(元)
				必修	動物看護技術学実習Ⅰ	①	
				必修	動物看護技術学実習Ⅱ	①	
				必修	動物臨床検査学Ⅱ	①	
				必修	外科動物看護技術学実習	①	
				必修	臨床動物看護学総論	①	
				必修	臨床動物看護学演習	①	
				選択	病院動物看護実習	①	
				選択	高齢動物看護学	①	
				選択	獣医看護実務実習Ⅰ	①	
				選択	獣医看護実務実習Ⅱ	①	
				必修	プレゼミナルⅠ	①	
				必修	プレゼミナルⅡ	①	
				必修	プレゼミナルⅢ	①	
				必修	プレゼミナルⅣ	①	
				選択	動物と人の健康と福祉特論	①	
				必修	卒業研究Ⅰ	①	
必修	卒業研究Ⅱ	①					
5	教授	佐々木 伸雄	H30.9	必修	動物看護技術学実習Ⅲ	①	H30.9 一身上の都合により就任辞退(元)
				必修	動物臨床検査学実習Ⅱ	①	
				必修	外科動物看護技術学	③	
				必修	外科動物看護技術学実習	①	
				必修	臨床動物看護学各論Ⅲ	③	
				選択	病院動物看護実習	①	
				選択	救急・終末医療看護学	①	
				選択	獣医看護実務実習Ⅰ	①	
				選択	獣医看護実務実習Ⅱ	①	
				必修	プレゼミナルⅠ	①	
				必修	プレゼミナルⅡ	①	
				必修	プレゼミナルⅢ	①	
				必修	プレゼミナルⅣ	①	
				選択	VPP特論	①	
				必修	卒業研究Ⅰ	①	
				必修	卒業研究Ⅱ	①	

6	准教授	小沼 守	H30.10	必修	栄養学	①	H30.10 一身上の都合により就任辞退(元)		
				必修	動物看護技術学実習Ⅲ	①			
				必修	動物臨床検査学実習Ⅰ	①			
				必修	臨床動物看護学各論Ⅰ	①			
				選択	臨床動物看護学演習	①			
				選択	臨床動物看護技術学実習	①			
				選択	病院動物看護実習	①			
				選択	チーム獣医療学	①			
				選択	獣医看護実務実習Ⅰ	①			
				選択	獣医看護実務実習Ⅱ	①			
				必修	プレゼミナールⅠ	①			
				必修	プレゼミナールⅡ	①			
				必修	プレゼミナールⅢ	①			
				必修	プレゼミナールⅣ	①			
				選択	動物と人の健康と福祉特論	①			
必修	卒業研究Ⅰ	①							
必修	卒業研究Ⅱ	①							
合計(D)			後任補充状況の集計(E)						
就任を辞退した教員数		担当科目数の合計(a)+(b)+(c)		①の合計数(a)		②の合計数(b)		③の合計数(c)	
6	人	必修	43 科目	必修	40 科目	必修	1 科目	必修	2 科目
		選択	40 科目	選択	37 科目	選択	3 科目	選択	0 科目
		自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目
		計	83 科目	計	77 科目	計	4 科目	計	2 科目

- (注) ・ 認可時又は届出時以降、就任を辞退した全ての専任教員の就任辞退の理由を具体的に記入してください。
- ・ 「就任辞退(未就任)」とは、認可又は届出時に就任予定としながら、実際には就任しなかった教員のことです。就任した後に辞任した教員は、以下「(3) - ②専任教員辞任の理由及び後任補充状況」に記入してください。
 - ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに就任を辞退した場合、赤字にて記入するとともに、「就任辞退(未就任)の理由」に就任辞退の理由等および()書きで報告年度を記入してください。
 - ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する(している)場合は「①」
- ・ 兼任兼担教員が担当する(している)場合は「②」
- ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) - ② 専任教員辞任の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由		
		該当なし							
合計(F)			後任補充状況の集計(G)						
辞任した教員数		担当科目数の合計(a)+(b)+(c)		①の合計数(a)		②の合計数(b)		③の合計数(c)	
0	人	必修	0 科目	必修	0 科目	必修	0 科目	必修	0 科目
		選択	0 科目	選択	0 科目	選択	0 科目	選択	0 科目
		自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目
		計	0 科目	計	0 科目	計	0 科目	計	0 科目

- (注) ・ 一度就任した後に、定年による退職以外の理由で辞任した全ての専任教員について記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等および()書きで報告年度を記入してください。
 - ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する(している)場合は「①」
- ・ 兼任兼担教員が担当する(している)場合は「②」
- ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) - ③ 上記(3) - ① ・ (3) - ② の合計

合計(D) + (F)			後任補充状況の集計(E) + (G)						
辞任等した教員数		担当科目数の合計(a)+(b)+(c)		①の合計数(a)		②の合計数(b)		③の合計数(c)	
6	人	必修	43 科目	必修	40 科目	必修	1 科目	必修	2 科目
		選択	40 科目	選択	37 科目	選択	3 科目	選択	0 科目
		自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目
		計	83 科目	計	77 科目	計	4 科目	計	2 科目

(3) -④ 設置時の計画に対する教員辞任率

$$\frac{(3) - \text{③合計(D)} + (F)}{(2) - \text{②設置時の計画(A)}} = \frac{6}{12} = \boxed{50} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) -⑤ 定年により退職した専任教員に対する後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由	
		-					
合計				後任補充状況の集計			
辞任した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)	②の合計数 (b)	③の合計数 (c)	
-	人	必修	0 科目	必修	0 科目	必修	0 科目
		選択	0 科目	選択	0 科目	選択	0 科目
		自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目
		計	0 科目	計	0 科目	計	0 科目

- (注) ・ **定年により退職した全ての専任教員**について記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等および () 書きで報告年度を記入してください。
 - ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する (している) 場合は「①」
- ・ 兼任兼担教員が担当する (している) 場合は「②」
- ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

就任辞退した教員の後任として十分な教育研究業績を有する後任の専任教員をAC教員審査を経て採用している。後任の担当者には本学部の趣旨や教育課程の特色等に関するFD、オムニバス科目や、共同で担当する科目、実習科目については、科目責任者が当該科目の目標、到達度、評価の基準、各回の内容、留意点等のガイダンスを十分に行うことで、認可時の計画通りの授業を遂行する方針である。
また学生には担当者の変更について学期始めのオリエンテーションや学生専用のインターネットによる情報窓口であるポータルサイトで周知を図っている。

- (注) ・ 上記(3)の専任教員辞任等による学生の履修等への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能なかぎり具体的に記入してください。

6 附帯事項等に対する履行状況等

区 分	附 帯 事 項 等	履 行 状 況	今後の の実施計画
<p>認 可 時 (平成29年)</p>	<p>1. 獣医学科では最も大規模の入学定員となるため、学生の教育研究活動に支障をきたさないように、定員の厳格な管理に努めるとともに、実習における学生の実技経験の質的・量的充実を図ること。 (獣医学科)</p> <p style="text-align: center;">留意事項</p>	<p>【獣医学科】 獣医学科は他の獣医系大学の状況を参考に歩留まりを予想し入学定員の適正化に努めたが、辞退者数が想定していた数を下回ったことにより入学定員超過率が1.05倍となっている。2019年度入試においては、2018年度入試実績を踏まえ1.00倍となるよう定員超過の是正に努める。 獣医学科の入学定員140名に対して147名の入学者を受け入れたが、1年次から始まる「動物関連キャリア概論」「生命科学実習」においては、獣医保健看護学科との合同実習であり、学部入学定員200人に対し、入学者は186人であった。これらの実習は、設置計画通り3班に分けて実施しており、学生の実技経験の質的・量的充実を図っている。(30)</p> <p style="text-align: center;">履行中</p>	<p>【獣医学科】 2019年度入試は、情報収集に努め、競合関係にある各大学の模試結果と志願者数の相関関係、一般入試の歩留まり率などを基により定員超過の是正を行う。 2年次以降の実習科目においても、設置認可時の計画を確実に履行するとともに、学生の実習における質的・量的充実を図る。</p>
		<p>【獣医学科】 前年度の各入試区分での歩留まりや他大学の状況を参考に2019年度入試を実施した。 年内の推薦系入試、一般入試前期SA系の入試の手続き状況がおもわしくなくため、追加合格を行った。追加合格者の歩留まりを最大で0.5と予想し追加合格を出したが、予想を大きく上回る手続きがあり、結果として入学定員超過(1.22倍)となった。2020年度入試においては、厳格な定員管理を行う体制として、過去2カ年の入試実績を踏まえるとともに、入試制度の変更も検討した。具体的には、推薦入試A方式を専願制に変更、一般入試前期SA方式・SAB方式、後期試験において補欠合格制度を導入するなどの見直しを行った【資料1「入試早わかりBOOK A0入試・推薦入試編」】【資料2「入試早わかりBOOK 一般入試編」】。 また、学生の教育・研究活動、特に実習における学生の実技経験の質的・量的充実の観点から支障をきたさないよう、実習施設数、実習を行う1班当たりの学生数、機器や器具、試薬などの消耗品や実習対象動物数、教員配置の妥当性を検討した。実習施設では2019年度の入学生用に訪問実習施設を7施設増やした。また実習を行う班の数も増やし、1班あたりの学生数が認可時の水準と同等になるように実習の質的・量的充実を図った。さらに実習に伴う機器や器材・器具、試薬などの消耗品や実習用動物については、計画的に購入し対応した。 教員配置については、設置時の計画より2学科で2名多く専任教員を採用したことで手厚く支援できる体制となった。以上のとおり、学生の教育・研究活動、実習における学生の実技経験の質的・量的観点から支障をきたさないよう対応を図った。実習科目ごとの具体的な対応状況は【資料3「2018年度・2019年度実習の実施状況及び今後の実施計画」】のとおりである。 (元)</p> <p style="text-align: center;">履行中</p>	<p>【獣医学科】 平成30年度、令和元年度入学生の入学定員超過に今後も適切に対処するため、実習施設の確保に努めるとともに、一班あたりの学生数に留意し、対象動物数、消耗品、機材の必要数、実習に当たる人員の確保により、設置認可時の計画に基づき、学生の実習における質的・量的充実を図る。 また、2020年度入試は、引き続き情報収集(他の競合大学の状況等)、過去2カ年の入試実績を踏まえ、歩留まり予想を立て入試を実施する。また、各入試区分で確実に入学者を確保するため補欠合格制度を導入し、定員超過の是正を行う。 (元)</p>

	<p>2. 「総合参加型臨床実習」については、外来患者数を確実に確保するとともに、病院で一度に実習する学生数を分散するなど時間割の組み方や1班当たりの学生数の工夫などにより、参加型としての実習効果を高められるように努めること。 (獣医学科)</p>	<p>【獣医学科】 獣医学教育病院の開設届を2018年4月に愛媛県に提出し、受理された。これを受けて、紹介患者を増やすことを目的として、紹介元である中四国の一次動物病院とのネットワーク構築を進めている。愛媛県を中心に獣医師を対象とする教育病院の説明・見学会を順次開催しており、5月6日時点で70名以上の獣医師の参加を得ている。また、地域の獣医療に関する研究会に教員が積極的に参加して、地域の獣医師の二次診療に対する理解を深める努力を重ねている。学外実習運営連絡協議会を設置して、産業動物臨床を充実させる目的で、地域の農業共済組合等と往診および患者受け入れのための協議を進めている。</p> <p>5年次に実施される「総合参加型臨床実習」については、参加型としての実習効果を高められるように、初年次より実習担当者間で協議を開始した。学外の参加型臨床実習に関しては、学外実習運営連絡協議会を組織し、活動を始めている。 (30)</p>	<p>【獣医学科】 次年度以降も継続して、外来患者数を確実に確保するとともに、「総合参加型臨床実習」を開始する 2022(令和4)年度までに参加型としての実習効果向上に努める。(30)</p>
	留意事項	履行中	
			<p>平成30年度は、紹介による外来患者数を確実に確保することを目的として、中四国の一次動物病院(愛媛県、高知県、山口県、広島県)を対象にした獣医学教育病院の説明・見学会を開催した(参加人数合計103名)。 また、獣医学教育病院の獣医療に関する認知度を高めるとともに、地域の一次動物病院のスキルアップを目的として、約2か月に1回(計6回)の公開セミナーを開催し、各回平均30名程度の参加を得ている。これらの努力の成果もあり、平成30年度は、患頭数160(延べ診療頭数796頭)となった。 (元)</p>

<p>3. 「人獣共通感染症学実習」等の病原体を扱う実習については、実習内容に見合ったバイオセーフティーレベルの実験室を使用するため、法令やガイドラインに基づき、学内規程等を整備し、安全に配慮した適切な運用に努めること。(獣医学科)</p>	<p>留意事項</p>	<p>【獣医学科】 「岡山理科大学病原体等安全管理規程」を制定した。同規程において病原体安全管理委員会の設置を明示し、病原体の取扱いに関する責任・管理体制を明確化した。(30)</p>	<p>【獣医学科】 ①病原体の受け入れ、分与、輸送、管理等病原体を扱う上で必要な申請様式集や学内細則の作成を進める。 ②SFTSV（三種病原体）および低病原性鳥インフルエンザウイルス（届出伝染病等病原体）を所持する病原体とし、中国四国厚生局への三種病原体所持に関わる届出申請、ならびに農林水産省への家畜伝染病の届出申請を行う方針を決定する。 ③病原体を扱う基礎実習（微生物学実習等）で利用するBSL 2の病原体、または研究で使用するBSL 2の病原体（特定病原体、家畜伝染病病原体に該当しないもの）の分与を受けて、実際にBSL 2施設を稼働させる。 ④人獣共通感染症実習（アドバンスト科目）は、人獣共通感染症を扱うために必要なバイオセーフティ技術を学ぶ実習であり、実際にBSL 3病原体をBSL 3施設内で扱う実習ではない。技術習得のためのモデル実習としてシミュレーション等の準備を始める。(30)</p>
		<p>「岡山理科大学獣医学部病原体等安全管理細則」を制定した。同細則において、一般的な病原体（特定病原体や家畜伝染病病原体を除く）の受け入れ、分与、輸送、管理等病原体を扱う上で必要な申請様式集を整備し、学部内での運営に関わる細則を制定した。 添付：【資料4】「岡山理科大学獣医学部病原体等安全管理細則」 上記細則に則り、病原体を扱う基礎実習（微生物学実習等）で利用するBSL2病原体、または研究で使用するBSL2病原体（特定病原体、家畜伝染病病原体に該当しないもの）の分与を受けて、BSL2施設の稼働を開始した。(元)</p>	<p>獣医学部における病原体を用いた教育・研究等の進捗状況、および安全で適切な病原体取扱い施設の管理・運用の活動報告を今治市および地域に行い、地域の理解を深める。 SFTSV（三種病原体）を所持する病原体とし、中国四国厚生局への三種病原体所持に関わる届出申請の準備を進める（ただし人獣共通感染症実習は、実際にBSL 3病原体をBSL3施設内で扱う実習ではない）。 人獣共通感染症実習で実施する、BSL3施設を扱う技術習得を目的としたモデル実習（シミュレーション等）の準備を始める。</p>

<p>4. 「獣医画像診断学実習」については、対象動物をどのように実習で活用するかをシラバスに反映すること。 (獣医学科)</p>	<p>留意事項</p>	<p>【獣医学科】 2020（令和2）年度（3年次開講）を開始する「獣医画像診断学実習」のシラバスの改善について、担当教員による協議を開始した。 (30)</p>	<p>履行中</p> <p>【獣医学科】 「獣医画像診断学実習」の対象動物を生体（撮像用）と画像に分け、イヌ、ネコ、ウシ、ブタを基本とし、それらの入手と維持管理の方策を検討したうえでシラバスに反映させる予定である。さらに、獣医学教育病院を活用し、患者画像を集積し、実習に使用する画像を充実させる予定である。</p>
		<p>「獣医画像診断学実習」の対象動物を生体（撮像用）と画像に分け、イヌ、ネコ、ウシ、ブタを基本とし、それらの入手と維持管理の方策を検討したうえでシラバスに反映させる予定に変更はない。さらに、現在、獣医学教育病院を活用し、イヌ、ネコの症例の各種診断画像（X線、超音波、CT、MRI）を集積しており、2019年4月の段階で160症例を集めている。これらの症例の画像は、病院内の画像データベースとして保存されており、いつでも実習に使用できる状態が構築されている。（元）</p>	<p>履行中</p> <p>獣医学教育病院を活用したイヌ、ネコの症例の各種診断画像（X線、超音波、CT、MRI）の集積に関しては、前年度から引き続き行うことに加えて、本年度からは、産業動物部門も本格稼働する予定となっており、ウシ、ブタの診断画像（X線、超音波、CT、MRI）についても画像データベースの構築をしていく予定である。（元）</p>
<p>5. 実験動物の管理について、換気や区画の用意など安全性の確保は図られているが、管理方法の説明と図面との関係で整合を図り、正確な内容を示すこと。 (獣医学科)</p>	<p>留意事項</p>	<p>【獣医学科】 本学部実験動物センターのマウス、ラットの飼育エリアにおいては、設置認可申請書に記載の通り、アニマルスイート方式（独立した空調ゾーンの下に数室の飼育室と1～2室の実験室が配置されている方式）を採用し、研究者はそれぞれのゾーンにおいて、飼育並びに実験処置等を完結する (獣医学教育モデル・コア・カリキュラム準拠『実験動物学』P106-107で紹介されている)。具体的には、クリーンエリア（コンベンショナルエリア）においては、実験室1において実験処置並びに実験観察等の処置を行い、各動物の飼育はマウス飼育室1～4及びラット飼育室1～3にて行う。SPFエリアにおいては、実験室2において実験処置並びに実験観察等の処置を行い、各動物の飼育はSPFマウス1及びSPFラット1～2にて行う。これらのゾーンはそれぞれ独立した空調系統より制御されており、飼育設備も1ケージごとに独立していることから、それぞれのゾーンの中で実験室と飼育室の安全な往来を可能にしている。なお、実験動物の管理に関しては、責任と体制、手続き等を明確化するため、「岡山理科大学獣医学部実験動物センター規程」、「岡山理科大学獣医学部実験動物センター運営委員会規程」を制定した。 (30)</p>	<p>履行済</p>

<p>6. 完成年度前に、定年規程に定める退職年齢を超える専任教員数の割合が比較的高いことから、定年規程の趣旨を踏まえた適切な運用に努めるとともに、教員組織編制の将来構想について着実に実施すること。</p>	<p>留意事項</p>	<p>【獣医学科】 設置認可時において、獣医学科が完成年度を迎える令和5(2023)年度には、70代12名、60代13名、50代10名、40代26名、30代14名の年齢構成となる。完成年度前に定年規程に定める退職年齢を超える専任教員は75名中19名(25%)である。平成30年4月の開設時において、教授3名、准教授4名、助教1名が就任辞退、教授1名が死去したことにより、完成年度の年齢構成は70代10名、60代11名、50代8名、40代24名、30代13名となり、完成年度前に定年規程に定める退職年齢を超える専任教員は66名中13名(19%)である。辞退者の後任候補者については、年齢構成も考慮した上で確保する方針である。(30)</p> <p>【獣医保健看護学科】 設置認可時において、獣医保健看護学科が完成年度を迎える令和3(2021)年度には、70代3名、60代1名、50代3名、40代5名の年齢構成となる。完成年度前に定年規程に定める退職年齢を超える専任教員は12名中3名(25%)である。平成30年4月の開設時において、教授1名、准教授1名、助教1名が就任辞退しており、完成年度の年齢構成は70代3名、60代1名、50代2名、40代3名となり、完成年度前に定年規程に定める退職年齢を超える専任教員は9名中3名(33%)である。辞退者の後任候補者については、年齢構成も考慮した上で早急に確保する方針である。(30)</p>	<p>【獣医学科・獣医保健看護学科】 就任辞退者の確保と並行して、完成年度前に定年を迎える教員の後任人事は、教育研究の質保証を原則とし、完成年度の前年度から採用手続きを開始する。退職者の教育研究分野の継続性を重視し、教員採用計画に基づき、公募を原則とした公平性、透明性を担保した手続きを行う。年齢構成比を考慮し、30代から50代の教員確保に努め、着実に履行する。(30)</p> <p>履行中</p>
<p>【獣医学科】 専任教員の補充を行った結果、令和元年5月1日現在における完成年度の年齢構成は70代10名、60代13名、50代13名、40代26名、30代12名となり、完成年度前に定年規程に定める退職年齢を超える専任教員は74名中15名(20%)である。(元)</p>		<p>【獣医学科】 今後は教育研究の質保証を原則として、定年退職予定者の後任人事は完成年度の前年度からの手続き開始を目指す。また、退職者の教育研究分野の継続性を重視し、教員採用計画に基づき、公募を原則とした公平性、透明性を担保した手続きを行う。年齢構成比を考慮し、30代から50代の教員確保に努め、着実に履行する。(元)</p> <p>履行中</p>	

		<p>【獣医保健看護学科】 認可後、平成30年度までに6名の専任教員の就任辞退があった。いずれも認可後に発生したやむを得ない事由によるもので、親の介護を含む家庭の問題が2名、健康上の身体的問題による者1名、所属していた組織の職務上の問題が1名、予期せぬ事情・環境変化による者が2名となっている。</p> <p>辞退した教員も含め、就任承諾に関わる手続きは適正に行った。具体的には、教員候補者の依頼時には本学科の特色、人材養成の理念、教育研究上の目的及び3つの方針と担当授業科目との関連性について説明した上で就任承諾書をとった。認可後には獣医学部就任予定教員を集めた説明会を2回実施し、学校法人加計学園の歴史、建学の理念や使命、設置する大学の特色の説明の他、獣医学部設置の趣旨、特色、教育内容やキャンパス施設の概要の説明を行い、終了後には意見交換会（顔合わせ）を行うことで、協力して学部を運営、発展させていく意識を高めた。採用に関わる学内手続きは、認可後、設置準備委員会（教授会相当）、大学協議会の審議を経て学長より理事長に上申する手続きを適正に行った。</p> <p>就任辞退者の補充は速やかに行った。現在、教授1名の追加を令和元年度第3回AC教員審査受審中であり、職位適格となれば補充は全て完了することとなる。</p> <p>令和元年5月現在における獣医保健看護学科完成年度の年齢構成は70代1名、60代3名、50代3名、40代3名、30代1名であり、完成年度前に定年規程に定める退職年齢を超える専任教員は11名中2名(18%)である。辞退者の後任候補者については、年齢構成も考慮した上で早急に確保する方針である。(元)</p>	<p>【獣医保健看護学科】 今後は教育研究の質保証を原則として、定年退職予定者の後任人事は完成年度の前年度からの手続き開始を目指す。獣医保健看護学科は、現在AC教員審査中の候補者含め13名中3名が完成年度までに定年を迎えることとなる。このため、3名の後任の採用手続きについては、教員数及び教員配置の維持と教育・研究の質保証を原則とし、「学校法人加計学園大学教育職員の採用に関する規程」、「岡山理科大学教員採用昇任人事に関するガイドライン」及び「岡山理科大学獣医学部専任教員採用昇任に関する申し合わせ」【資料5-1,5-2,5-3】に沿って、適正に行う。また通常【資料5-4】の「既存学科の専門教育教員の採用に関する手続き」において、5月中旬より公募を開始するが、適任者選考のための十分な時間を確保するため、令和2年12月（完成年度の前年度）より公募を開始する等の対策を検討している。また、退職者の教育研究分野の継続性を重視し、教員採用計画に基づき、公募を原則とした公平性、透明性を担保した手続きを行う。年齢構成比を考慮し、30代から50代の教員確保に努め、着実に履行する。(元)</p>
--	--	---	---

設置計画履行状況調査 （平成29年）	・教育学部初等教育学科において、定年規程に定める退職年齢を超える専任教員数の割合が比較的高いことから、定年規程の趣旨を踏まえた適切な運用に努めるとともに、教員組織編成の将来構想について検討すること。	改善意見	平成28年度に設置した教育学部将来構想委員会において採用人事と昇任人事に関する検討を行い、設置計画を着実に実行するための後任を確保するため、学長会議において後任募集開始時期を早めることを決定した。これにより平成31年4月に公募を開始した。（元）	履行済	
	・同一設置者が設置する既設学部等（倉敷芸術科学大学芸術学部デザイン芸術学科、千葉科学大学薬学部生命薬科学科、危機管理学科、環境危機管理学科、航空技術危機管理学科）の定員充足率の平均が0.7倍未満となっていることから、学生確保に努めるとともに、入学定員の見直しについて検討すること。	改善意見	（倉敷芸術科学大学） 【芸術学部・デザイン芸術学科】 全国的に芸術分野を志望する受験生の減少や、受験生は関西・関東方面の芸術大学を検討しており、地元（岡山県内）、近隣県ともに志願者および入学者が伸び悩んでいる。平成28年度に下がった入学者数からは微増傾向にあるため、継続的な学科内の改革に取り組んでいく。（30）	履行中	（倉敷芸術科学大学） 【芸術学部・デザイン芸術学科】 定員を充足するための対策として、在学生への教育面・就職面の強化を図る。教員が外部発表の場を近隣県等で実施することで倉敷芸術科学大学芸術学部を発信する。また、地域連携による地域に信頼感を生む共同プロジェクトの推進を図る。高校生コンクール、オープンキャンパス等で、本学入学者への動機に繋がるプログラムやインセンティブを実施することで、定員の充足を図り改善を目指す。（30）
			（倉敷芸術科学大学） 【芸術学部・デザイン芸術学科】 芸術分野志望者の都市圏志向は変わらないにも関わらず、本学学科入学者は昨年度同様の数を維持した。しかし、志願者は15%増であった。（元）	履行中	（倉敷芸術科学大学） 【芸術学部・デザイン芸術学科】 志願者の増加傾向は、維持できたので歩留まりを上げるために、学科内の魅力をアピールすることに注力する。今までの改革を継続し、歩留まり増につなげる。（元）
			（千葉科学大学） 【薬学部・生命薬科学科】 6年制の薬学科と異なり、4年制の生命薬科学科では薬剤師受験資格が得られず、就職に直結しないため、全国的に4年制の薬科学科系の定員充足状況は厳しい状況にある。本学でも学修内容や就職先、教育内容を周知するために広報活動に積極的に取り組むとともに、平成30年度には入学定員を5名減じたが、志願者、入学者ともに伸び悩み、本年度入試においても厳しい状況が続いている。（30）	履行中	（千葉科学大学） 【薬学部・生命薬科学科】 平成31年度には薬学部の教育内容を見直し、生命薬科学科については、募集を停止する予定である。（30）
			（千葉科学大学） 【薬学部・生命薬科学科】 薬学部の教育内容を見直し、生命薬科学科については、平成31年度に学生募集を停止した。（元）	履行済	

		<p>【危機管理学部・環境危機管理学科】 定員を充足するための対策として、平成29（2017）年度から教育・研究内容の充実を目指し、新たなコース設定を行い、学科、各研究室で行っている教育・研究内容が受験生に伝わるよう研究テーマ別のリーフレットの作成、これまでの卒業生の具体的な就職先、職種を提示すること等により広報活動を展開したが、就職に直結する資格等がないことから卒業後の就職先のイメージがし難く、志願者、入学者ともに伸び悩み、本年度入試においても厳しい状況が続いている。（30）</p>	履行中	<p>【危機管理学部・環境危機管理学科】 平成31年度には一部の教育内容を関連の深い同学部の学科に移行し、環境危機管理学科については、募集を停止する予定である。（30）</p>
		<p>【危機管理学部・環境危機管理学科】 一部の教育内容を関連の深い同学部動物危機管理学科に移行し、環境危機管理学科については、平成31年度に学生募集を停止した。（元）</p>	履行済	
		<p>【危機管理学部・航空技術危機管理学科】 平成29年度から、学科名称を航空関連の学科であることが明確に伝わるよう、「航空技術危機管理学科」へと名称変更を行った。また、平成29年11月に航空機の操縦士を養成する私立大などによる民間機関が、一般社団法人「航空機操縦士育英会」を設立し、本学も平成30年3月には正式に加盟した。これらにより、本学においてもパイロットの養成を行なっていることが周知され、若干ではあるがエアラインパイロットを目指す志願者・入学者ともに増加傾向にある。（30）</p>	履行中	<p>【危機管理学部・航空技術危機管理学科】 今後も教育研究内容の充実、受験生、保護者への情報提供の方法・内容等について当該学科のみならず、全学的な広報委員会において積極的に検討し更なる改善を目指す。（30）</p>
		<p>【危機管理学部・航空技術危機管理学科】 平成29年度から、学科名称を航空関連の学科であることが明確に伝わるよう、「航空技術危機管理学科」へと名称変更を行った。また、パイロット養成を行う学部・学科を擁する大学の合同説明会である「エアラインパイロット養成大学合同説明会」への参加や一般社団法人「航空機操縦士育英会」に加盟するなど、広報活動強化を図るほか、平成31年1月以降の入学試験を前年度の2回から4回に拡大したことで、若干ではあるがエアラインパイロットを目指す志願者・入学者ともに増加傾向にある。（元）</p>	履行中	<p>【危機管理学部・航空技術危機管理学科】 今後も教育研究内容の充実、受験生、保護者への情報提供の方法・内容等について当該学科のみならず、全学的な広報委員会において積極的に検討し更なる改善を目指す。（元）</p>

設置計画履行状況 調査時 (平成30年)	・ 認可された設置計画から教授数に不足が生じ、大学設置基準が定める完成年度における教授数を確保できていないため、提示された教員の採用計画を確実に履行すること。(獣医保健看護学科)	指摘事項 (改善)	認可後に就任予定の教授が一身上の都合により辞退したため、平成30年5月1日現在の完成年度における教授数を満たしていなかった。早急に教授候補者の選考手続きを行い、令和元年5月1日現在、候補者が決定している。(元)	履行中	大学設置基準が定める完成年度における教授数を確保するため、教授候補者について令和元年度第3回AC教員審査を受審する。(元)
	・ 入学定員未充足の改善に努めること。(獣医学部獣医保健看護学科)		2019年度入試に向けて本学の獣医保健看護学科の特色を周知した結果、2019年度の入学定員充足率は0.71倍(2018年度0.68倍)であり、微増した。依然として既存の動物看護系の学科との差別化を図ることが課題である。(元)	履行中	入学定員充足に向けて、獣医保健看護学科の養成する人材像、特色ある教育課程を十分周知する。獣医学科の第2希望が多いことを鑑み、獣医学科と連携した教育課程の特色をアピールするとともに、入試制度の改革により学生確保に努める。(元)
	・ 定年規程に定める退職年齢を超える専任教員数の割合が高いことから、定年規程の趣旨を踏まえつつ適切な教員組織の編制に努めること。(獣医学部獣医学科)		専任教員の補充を行った結果、令和元年5月1日現在における完成年度の年齢構成は70代10名、60代13名、50代13名、40代26名、30代12名となり、完成年度前に定年規程に定める退職年齢を超える専任教員は74名中15名(20%)である。(元)	履行中	今後は教育研究の質保証を原則として、定年退職予定者の後任人事は完成年度の前年度からの手続き開始を目指す。また、退職者の教育研究分野の継続性を重視し、教員採用計画に基づき、公募を原則とした公平性、透明性を担保した手続きを行う。年齢構成比を考慮し、30代から50代の教員確保に努め、着実に履行する。(元)

- (注) ・ 「認可時」には、認可時または届出時に付された附帯事項(学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る附帯事項を除く。)と、それに対する履行状況等について、具体的に記入してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該年度の調査の結果、**当該大学に付された指摘を**全て記入するとともに、付された指摘に対する履行状況等について、具体的に記入してください。その履行状況等の参考となる資料があれば、添付してください。
 - ・ 「履行状況」では、履行中であれば「履行中」、履行が完了していれば「履行済」を選択してください。
 - ・ 該当がない場合には、「附帯事項等」の部分に「該当なし」と記入してください。
 - ・ 「設置計画履行状況調査時」には、調査結果が公表された年度の年を記入してください。

7 その他全般的事項

<獣医学部 獣医保健看護学科>

(1) 設置計画変更事項等

設置時の計画	変更内容・状況、今後の見通しなど
<p>入学者選抜の方法</p> <p>選抜方法は、A0入試、推薦入試、一般入試、センター試験利用入試等を設ける。(略)</p> <p>なお、<u>2018年度入試ではセンター試験利用入試を実施しない</u>。これに伴い、センター試験利用入試の募集人員は、一般入試(SA, SAB, SB, B1(獣医学科を除く)、後期の各方式)に募集人員を振り替える。</p> <p>※2: 2018年度については、センター試験を利用しないため、センター試験利用入試の募集人員は、以下のとおり、一般入試(SA, SAB, SB, B1, 後期)に振り替える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・センター試験利用入試CⅠ 3名 → 一般入試前期SA方式 2名、一般入試前期SAB方式 1名 ・センター試験利用入試CⅡ 3名 → 一般入試前期SB・B1方式 3名 ・センター試験利用入試CⅢ 1名 → 一般入試後期 1名 <p>これらセンター試験利用入試の募集人員振替により、一般入試の募集人員は以下のとおりとなる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一般入試前期SA方式 17名 ・一般入試前期SAB方式 6名 ・一般入試前期SB・B1方式 8名 ・一般入試後期 2名 	<p>入学者選抜の方法</p> <p>設置時の計画においては、2018年度入試においてセンター試験利用入試を実施しないとしていたが、センター試験利用手続きが完了し、実施することとしたため、下記のとおり、各入試方式の募集人員を変更した。(30)</p> <p>※2: センター試験を利用することに伴い、以下のとおり、一般入試(SA, SAB, SB, B1, 後期)に振り替えていた募集人員をセンター利用入試に振り替える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一般入試前期SA方式 2名、一般入試前期SAB方式 1名 → センター試験利用入試CⅠ 3名 ・一般入試前期SB・B1方式 3名 → センター試験利用入試CⅡ 3名 ・一般入試後期 1名 センター試験利用入試CⅢ 1名 <p>これらセンター試験利用入試への募集人員振替により、一般入試・センター試験利用入試の募集人員は以下のとおりとなる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一般入試前期SA方式 15名 ・一般入試前期SAB方式 5名 ・一般入試前期SB・B1方式 5名 ・一般入試後期 1名 ・センター試験利用入試CⅠ 3名 ・センター試験利用入試CⅡ 3名 ・センター試験利用入試CⅢ 1名
<p>② 施設・設備</p> <p>1) 平成30年度建設予定の大動物実習施設</p> <ul style="list-style-type: none"> a 手術室(40.91㎡) b 臨床講義室(101.02㎡) c 麻酔室(20.76㎡) d 滅菌室(5.65㎡) e 薬品庫(4.35㎡) f 大動物臨床実習室(変更なし) <p>上記の施設を使用する実習は、主として『産業動物臨床実習』と『獣医繁殖学実習』である。学生の割り振りについては下記の通りである。</p> <p>1. 『産業動物臨床実習』 140人を2グループに分け、さらにそのグループを3班(23~24人)に分けて、『臨床講義室』並びに『大動物臨床実習室』で『手術室』の様子を主としてモニター視で学修させる。</p> <p>2. 『獣医繁殖学実習』 140人を2グループに分け、さらにそのグループを2班(35人)に分ける。臨床獣医学実習では、1グループは『大動物臨床実習室』で実習を行い、他のグループは『臨床講義室』においてモニター視で学修させる。途中で両グループは入れ替える。</p> <p>2) 平成30年度増築予定の放射線治療室</p> <ul style="list-style-type: none"> a 前室(14.81㎡) 	<p>② 施設・設備</p> <p>1) 平成30年度建設予定の大動物実習施設</p> <ul style="list-style-type: none"> a 手術室(73.78㎡) b 臨床講義室(65.29㎡)【定員40人】 c 麻酔室(20.06㎡) d 滅菌室(6.99㎡) e 薬品庫(6.59㎡) f 大動物臨床実習室(変更なし) <p>手術に携わる教員以外にも学生たちが『手術室』に入って体験することで教育効果がよりあがるため『手術室』の面積を広くする。</p> <p>それに伴い、『臨床講義室』の面積が多少狭くなるが、65.29㎡【定員40人】の面積であれば、当初計画の実習体制には影響がない。</p> <p>これらの間取りの変更に伴い、平面図を変更した。(30)</p> <p>2) 平成30年度増築予定の放射線治療室</p> <ul style="list-style-type: none"> a 前室(18.78㎡) <p>リニアックによる治療については臨床分野の学生に、ライフライン接続等前準備を学習させる必要があるため前室を変更した。(30)</p>

<p>③進級要件 獣医保健看護学科の進級要件は次のとおりである。 3年次から4年次に進級するとき、専門教育科目を60単位以上、そのうち必修科目40単位以上、外国語教育科目より必修科目6単位、選択必修科目を2単位以上、教養教育科目を16単位以上を含み、合計で96単位以上修得していること。</p>	<p>③進級要件 獣医保健看護学科の進級要件について、獣医保健看護学科では、多くの獣医看護アドバンスト科目を学生が円滑に履修できるよう、3年次から4年次に進級するとき進級要件を設定していたが、実際に動物を扱う実習科目や学外での実習など臨床に携わる科目を3年次より開講するため、2年次生を終えるまでに実習に必要な知識や技術を学生に習得させておく必要があることから、専門教育科目42単位以上、外国語教育科目を4単位以上含み、合計で60単位以上修得することを、2年次から3年次に進級する際の進級要件として新たに設定し、岡山理科大学獣医学部履修規程第9条第2項に規定し平成30年4月1日より施行した。なお、学生には履修規程に基づき入学後のオリエンテーションにおいて周知済みである。(30)</p>
---	--

(注) ・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの(未実施を含む。)及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。

(2) 教員の資質の維持向上の方策(FD・SD活動含む)

<p>① 実施体制</p> <p>a 委員会の設置状況</p> <p>本学では教員の教育能力を高める組織的・実践的取り組みとして平成12年度にFD委員会を設け、授業の改善を目的に教育システムの点検、授業内容(範囲及び水準)・方法の妥当性の検証等に全学的に取り組んできた。平成22年度には教育開発支援機構(平成28年度より教育支援機構、平成30年度より教育推進機構)を設置して、FD推進室を中心に従来の取り組みの拡充を図り、学生による授業評価アンケート、教員間の授業参観、これらの有効性・妥当性の検証と啓発・周知を図るための講演会等の研修、各種報告書の作成と公開を行ってきた。</p> <p>平成28年度に全学的な教育研究組織の改変に伴い、FD推進室は、教育支援機構(現在:教育推進機構)教育開発センターとして、発展的に改組するとともに、本学が直面する教育課題に対応し教育改革計画を立案し、集中的に審議するための学長直下の組織として教育改革会議を設置した。さらに、平成30年度より各学科・センターの教育内容及び教育方法の改善に係る企画立案及び成果検証において中核的な役割を果たす教員を教育ディベロッパーとして任命する制度を設け、全学と学科・センターの教育改革が有効に機能する体制を整えた。</p> <p>FDに関しては、教育推進機構の教育開発センターが教員の資質の維持向上の研修等の企画を立案する。教育開発センターにおけるFDの実実施計画等は、全学的な教学事項を審議する第1学部運営委員会で検討を行う。(添付資料 岡山理科大学第1学部運営委員会規程)</p> <p>また、教育研究活動の適切かつ効果的な運営を図るため、教職員を対象として必要は知識や技能を修得させ、能力及び資質を向上させるための研修としてSDを計画的に行っている。SDについてはSD推進委員会を設置し定期的にSDの実施方針、実施計画等を審議している。</p> <p>第1学部運営委員会は副学長を委員長とし、全学部長、学科長、センター長、教学業務の支援スタッフ等を委員とし、毎月1回開催し、教育改善について継続的に審議する。参加状況は委員全員が出席を原則とし、欠席の場合は代理出席を求める。</p> <p>今治キャンパスにおいては、教育能力開発センター運営委員会を設置して、月1回開催する予定である。メンバーは教育能力開発センター長、教育能力開発センター員、教学・学生支援部長、その他教育能力開発センター長が必要と認められた者となっており、センター員には教育能力開発担当教職員、外国語教育担当教員、教養教育担当教員があたる。委員の過半数が出席しなければ議事を開くことはできないため、欠席の場合は代理者を求める。</p> <p>SD推進委員会は、学長を委員長として、副学長、事務局長、事務局次長、庶務部長、研修室長(法人本部)を委員としてSDについて継続的に審議する。</p> <p>第1学部運営委員会は、次の事項について審議する。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 学務及び教務に関すること (2) 学生生活に関すること (3) FDなどの教育に関すること (4) 研究体制に関すること (5) 図書館の運営に関すること (6) 情報処理センターの運営に関すること (7) その他の附属教育研究施設に関すること (8) 外国語教育科目、教養教育科目、教職関連科目、博物館学芸員関連科目等学部共通教育に関すること (9) ICTを活用した教育システムに関すること (10) 学部長等会議から審議付託されたこと (11) その他大学の教育及び研究に関して必要なこと <p>教育能力開発センター運営委員会では、次に掲げるセンター業務について審議する。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 本学部の教育課題に係る調査、研究等に関すること (2) 教育の質保証のための教職員の能力開発に関すること (3) 授業評価に関すること (4) 学生の学修支援に関すること (5) その他教育開発に係る調査、研究等に関すること <p>SD推進委員会は次の事項について審議する。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) SDの実施方針ならびに実施計画の作成に関すること (2) SDの実施に関すること (3) SDにおける点検・評価に関すること (4) その他必要事項
--

② 実施状況

a 実施内容

- ・学生による授業アンケート
- ・教員相互の授業参観
- ・FD講演会、FD・SD講演会
- ・今治キャンパスにおいては、四国において活発に活動が行われている四国地区大学教職員能力開発ネットワーク（Shikoku Professional and Organizational Development Network in Higher Education以下「SPOD」という）のFD・SD活動に職員を派遣するとともに、SPODからも講師を派遣してもらい、研修に役立てる。

b 実施方法

- ・学生による授業アンケートに関しては③に後述する。
- ・教員相互の授業参観は学部内で教員が参観できる授業参観を毎年実施している。詳細はC項に挙げている。
- ・FD講演会、FD・SD講演会
講演会は講師による講演と質疑応答を行い各自が授業改善の取り組みに生かす。フォーラムは講演とワークショップがセットになったもので、ワークショップでは具体的に教授手法などを学ぶことができる。

c 開催状況（教員の参加状況含む）

獣医学部においてFDに向けた支援を行う教育能力開発センターに対する理解を深めることを目的に、下記の通り研修会を実施した。

2018/4/2 第1回FD研修会（新任教員対象）

2018/7/11 第2回FD・SD合同研修会（獣医学部における安全衛生について）

2018/11/30 第3回FD・SD合同研修会（SPOD内講師派遣プログラムによる「獣医学部における4つのポリシーについて」）

また、平成30年度より獣医学部が四国地区大学教職員能力開発ネットワーク（SPOD）に新規に加盟し、SPODで開催されている各種プログラムやフォーラム、総会等にも教職員が参加、受講した。

令和元年度も獣医学部教育能力開発センター主催のFD研修会（FD・SD合同研修会も含む）を実施する計画である。

さらにTV会議システムを利用して、岡山キャンパスで開催している全学のFD、SD講演会にも参加する計画である。昨年度の開催状況は下記の通りである。

【平成30年度】

2018/7/5 第1回教育ディベロッパー研修会（DP・CP・APの見直し）

2018/9/6 第2回教育ディベロッパー研修会（3つのポリシー確認、カリキュラムアセスメントチェックリスト作成）

2018/9/15 英語FD研修会（ベルクテスト結果、学習管理システム、総合英語・専門英語について）

2018/9/20 全学FD・SD研修会

（FD：3つのポリシーとカリキュラムアセスメントポリシー）

（SD：事業計画における自己評価と認証評価におけるアセスメントポリシー）

2018/10/25 専門英語FD講演会（工学部の専門英語について）

2018/10/31 フォローアップFD研修会（大学への円滑な移行に向けた高大接続教育）

2018/11/29 第3回教育ディベロッパー研修会（授業デザインとシラバス作成方法、カリキュラムアセスメントチェック）

2018/12/6 全学FD研修会（カリキュラムアセスメント手法、シラバス作成方法）

2018/12/14 今治キャンパスFD研修会（シラバス作成説明）

2019/1/18 第4回教育ディベロッパー研修会（カリキュラムアセスメントチェックを用いた検証方法）

2019/2/27 ICT活用に関するFD研修会（メディアを活用した授業事例紹介、新システム紹介）

2019/2/28 今治キャンパスFD研修会（ICT活用に関する授業事例紹介、新システム&講義収録用システム紹介）

2019/3/12 アクティブラーニングFD研修会（学生の学びを促進するアクティブラーニング；授業設計の必要性）

2019/3/22 全学FD研修会（学科カリキュラムアセスメントチェックの実施と各学部のFD活動報告）

d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

- ・授業参観に関しては参観者が記入したレポートを、学内の教職員が閲覧可能なポータルサイトに掲載し、各授業参観に参加できなかった教員の参考資料になるようにしている。

③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況

a 実施の有無及び実施時期

すべての授業科目に対してWeb（ポートフォリオ）によるアンケート調査を実施している。質問項目は、学生自身の学習の取り組み、授業内容の水準、方法、形態、施設・設備などに加え、自由記述欄も設けている。

b 教員や学生への公開状況、方法等

アンケートの集計結果は、Web上で確認することができ、所属長の点検と同時に担当教員自身が学生による自由記述欄へのコメントに対する所見をWebシラバス上に登録する。所見については、全ての学生・教員が閲覧できるようにしている。またWebシラバスの所見欄が拡充され、「受講者へのコメント」、「次回に向けての改善・変更予定」を加え、学生の意見に教員が応えることによって継続的な授業改善が行われるようにしている。

（注）・「①a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。

「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。（記入例参照）

(3) 教育課程連携協議会に関する事項

※専門職大学、専門職短期大学、専門職大学院以外は「該当なし」と記入ください。

① 体制

a 委員会の設置状況（各区分を踏まえた委員構成を踏まえた委員の追加や交代状況含む）

該当なし

b 委員会の開催状況（回数や開催日など）

該当なし

c 委員会の審議事項等

該当なし

d その他

該当なし

② 審議状況

a 審議した内容

該当なし

b 教育課程連携協議会が審議した内容を踏まえた大学での教育課程への見直し状況

該当なし

c 教育課程連携協議会が審議した内容を踏まえた大学での教育課程への反映状況

該当なし

(4) 自己点検・評価等に関する事項

① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

獣医保健看護学科においてはライフサイエンス研究の発展や獣医事に関する感染症への迅速な対応、及び臨床獣医療におけるチーム獣医療遂行のため、次の3つの観点に基づく人材像を掲げる。

①ライフサイエンス研究において、重要な役割を担う実験動物の取扱いや管理等の知識と技能を有し、動物の病態を理解し、ライフサイエンス研究の基盤を支える人材として、大学医学部等の附属実験動物センター、医科学研究機関、製薬企業、実験動物繁殖企業、医薬品、医療機器開発企業、衛生管理、機器関連企業、実験動物関連機材製造販売企業等で実験動物管理者等として実践的な能力を発揮するVPPを養成する。

②公共獣医事分野において、産業動物看護、感染症対策に関する知識と技能を有し、産業動物の管理を担うことで、食の安全・安心と感染症防御の基盤を支える人材を養成する。

③獣医療看護分野において、獣医看護学に関する専門的な知識と技能を備え、高度化する臨床獣医療において獣医師と連携・補完し合うチーム獣医療を実践し、動物とヒトの健康と福祉、QOLの向上に貢献する人材を養成する。

これらの人材養成の目的を達成するために、①に対しては、ライフサイエンス分野に対応するために設定した<実験動物科目>では、実験動物学の専門家等を配置し、「実験動物飼養管理学」、「遺伝子工学」、「実験動物看護実習」等を体系的に配置したカリキュラムにより、VPPとして適正な実験動物管理に関する教育研究を推進する。②については、公共獣医事分野に対応するために設定した<公衆衛生科目>では、産業動物獣医療の実務経験の豊富な教員を配置し、「産業動物看護学実習」、「バイオセーフティ学」、「動物危機管理学」等を網羅したカリキュラムにより、VPPとして産業動物の取り扱いや感染症防御の支援に関する教育研究を推進する。③については、獣医療看護分野に対応するために設定した<高度獣医療看護科目>では、臨床経験・動物看護教育経験を持った教員を配置し、「動物の疼痛と福祉」、「高齢動物看護学」等による体系的なカリキュラムにより、高度獣医看護に関する教育研究を推進する。

開設2年目である本年（令和31年度）では、引き続き4月のオリエンテーション及び初年次科目である「フレッシュマンセミナー」によって、獣医保健看護学科の目標やコンセプトが学生に浸透させる。また、獣医学科と獣医保健看護学科の学生が共に学ぶ「学部共通導入科目」として、獣医師と獣医関連専門家（VPP）の仕事の現場を体験に基づいて学ぶ「動物関連キャリア概論」や、解剖学、生理学、薬理学、生化学の基礎的な実習課題に取り組み、生命科学の理解を深める「生命科学実習」を開講して、獣医師あるいは獣医関連専門家（VPP）としてのキャリアを視野に学びへの動機づけを行った。

本年度も設置計画を着実に履行し、学部の教育研究目的を達成するために、平成31年度4月に着任した教員については、本学の方針、ビジョン・アクションプラン（中期目標・中期計画）、獣医学部の人材養成の理念、教育研究上の特色、学生支援や管理運営方針等について研修を行い共有した。今後は、獣医学部の円滑な運営に向けて、獣医学部の3つの方針（ディプロマポリシー、カリキュラムポリシー、アドミッションポリシー）に基づく教育の推進を目指し、獣医学部内に設置した評価・計画委員会を中心に、学部の内部質保証が有効に機能していることを確認する体制を整え、運営していく。

② 自己点検・評価報告書

a 公表（予定）時期

・令和2年4月1日 公表

b 公表方法

・大学ホームページ上に公表

③ 認証評価を受ける計画

令和2年度に評価機関（大学基準協会）の認証評価を受ける予定である。

（注）・ 設置時の計画の変更（又は未実施）の有無に関わらず記入してください。

また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。

なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

（5）情報公表に関する事項

○ 設置計画履行状況報告書（令和元年度）

a ホームページへの公表予定の有無 （ 有 ・ 無 ）

b 公表有の場合の公表（予定）時期 （ 令和2年3月31日 ）

b 公表無の場合の特段の理由 （ ）

（注）・ 今後公表する予定の場合は、「有」にマルを記入してください。今後も公表する予定がない場合は、「無」にマルを記入してください。